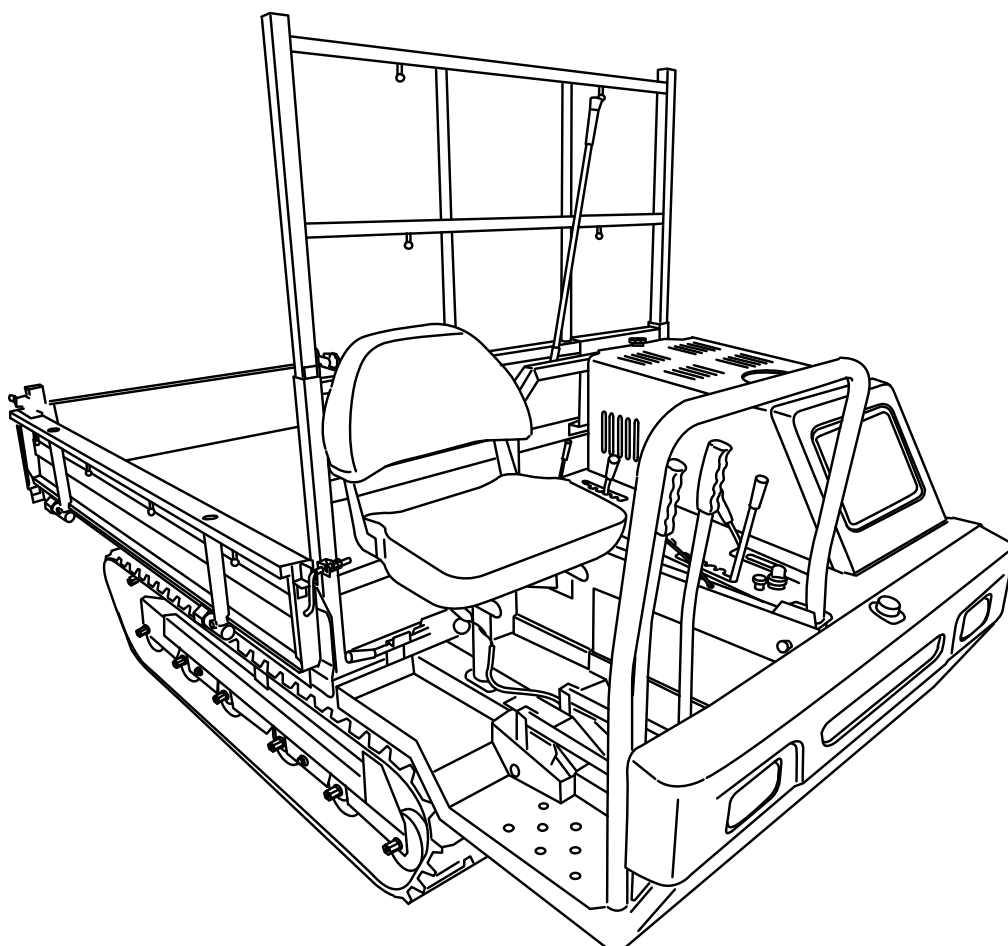


クローラ型運搬車

取扱説明書

XG1200LDEB



ご使用前に必ずお読み下さい。

atex

はじめに

- このたびは、本製品をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございます。
- 本取扱説明書（以下「本書」と略す）は、本製品をご使用いただく際に守っていただきたい安全作業に関する基本事項、および適正な状態でご使用いただくための正しい運転、点検・整備に関する技術事項、その他の事項について説明しております。
- 本製品を初めてご使用される際、また、日頃の運転や取り扱い前にも本書を熟読していただき、十分理解されたうえで事前確認および安全な作業を心がけてください。
- 本書は、いつでも取り出して読むことができるよう大切に保管してください。本書の紛失または損傷された場合は、すみやかにお買いあげいただいた販売店にご注文ください。
- 本製品を貸与または譲渡される場合は、相手の方に本書の内容を十分理解していただくとともに、本書をお渡しください。
- 本製品において、品質、性能向上および安全性の向上のために仕様を変更する場合があります。その際には、本書の内容、イラストなどが本製品と一致しない場合がありますのでご了承ください。
- ご不明点がありましたら、ご遠慮なくお買いあげいただきました販売店にお問い合わせください。
- 本書の中の **⚠重要** 表示は、安全面、取り扱い方法に関して下記のような重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守ってください。

表 示	重 要 度
⚠危険	その指示に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
⚠警告	その指示に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠注意	その指示に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しております。
重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。

はじめに

- 本製品の仕様に関して各項目をご確認いただき、安全に十分注意し、取り扱ってください。

型 式	搭載エンジン仕様	荷台タイプ
XG1200LDEB	種 類：空冷4サイクル1気筒OHVガソリンエンジン 型 式：ホンダ GX390 定格出力（ネット値）：7.0kW(9.5PS)/1800rpm （最大出力：8.7kW(11.8PS)/1800rpm）	油圧式リフトor ダンプ

注意

- 本製品は圃場内作業車であるため、公道および公道とみなされる道路での使用はできません。当該道路上での使用による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。
- 本製品は農業用の運搬車です。それ以外の用途では使用しないでください。


目次

重要安全ポイントについて	2
安全表示ラベルの注意	3~4
安全のポイント	5~18
安全な作業をするために	5~18
保証とサービス	19
各部の名称とはたらき	20~28
各部の名称	20
操作レバーおよびスイッチの名称とはたらき	20~28
運転前の準備	29・30
運転前の点検について	29・30
運転のしかた	31~54
エンジンの始動と停止のしかた	31~33
走行のしかた	34~38
積載要領	38・39
油圧操作	39
点検・整備	40~47
各部の調整	48~54
手入れと格納	55・56
不調時の対応のしかた	57~60
農作業を安全におこなうために	61~65
一般共通事項	61~63
移動機械共通事項	64・65
サービス資料	66~69
主要諸元	66
外観図	67
配線図	68
主な消耗部品	69
索引	70・71

重要安全ポイントについて

1. 本機の使用前には必ず始業点検を実施します。特に重要な保安部品（例：ブレーキ）は、整備して適正な状態を維持します。
2. 本機の操作および作業の際は、保護カバー類が取り付けられていることを確認します。
3. 路肩および軟弱地で本機を使用する際は、転倒・転落のないよう十分注意します。
4. 坂道で本機を使用する際は、急旋回およびUターンを禁止します。
5. 本機の清掃および点検・整備の際は、必ずエンジンを停止させ、機体が停止していることを確認します。また、高温部が冷めていることを確認します。
6. 補助者と共同作業を行なう際は、合図にて安全を確認します。
7. リフトまたはダンプ作業の際は、周囲の安全を確認します。
8. 荷物はバランス良く積み込み、積載重量以下であることを確認します。また、荷崩れが発生しないようロープまたはベルトなどにて固定します。

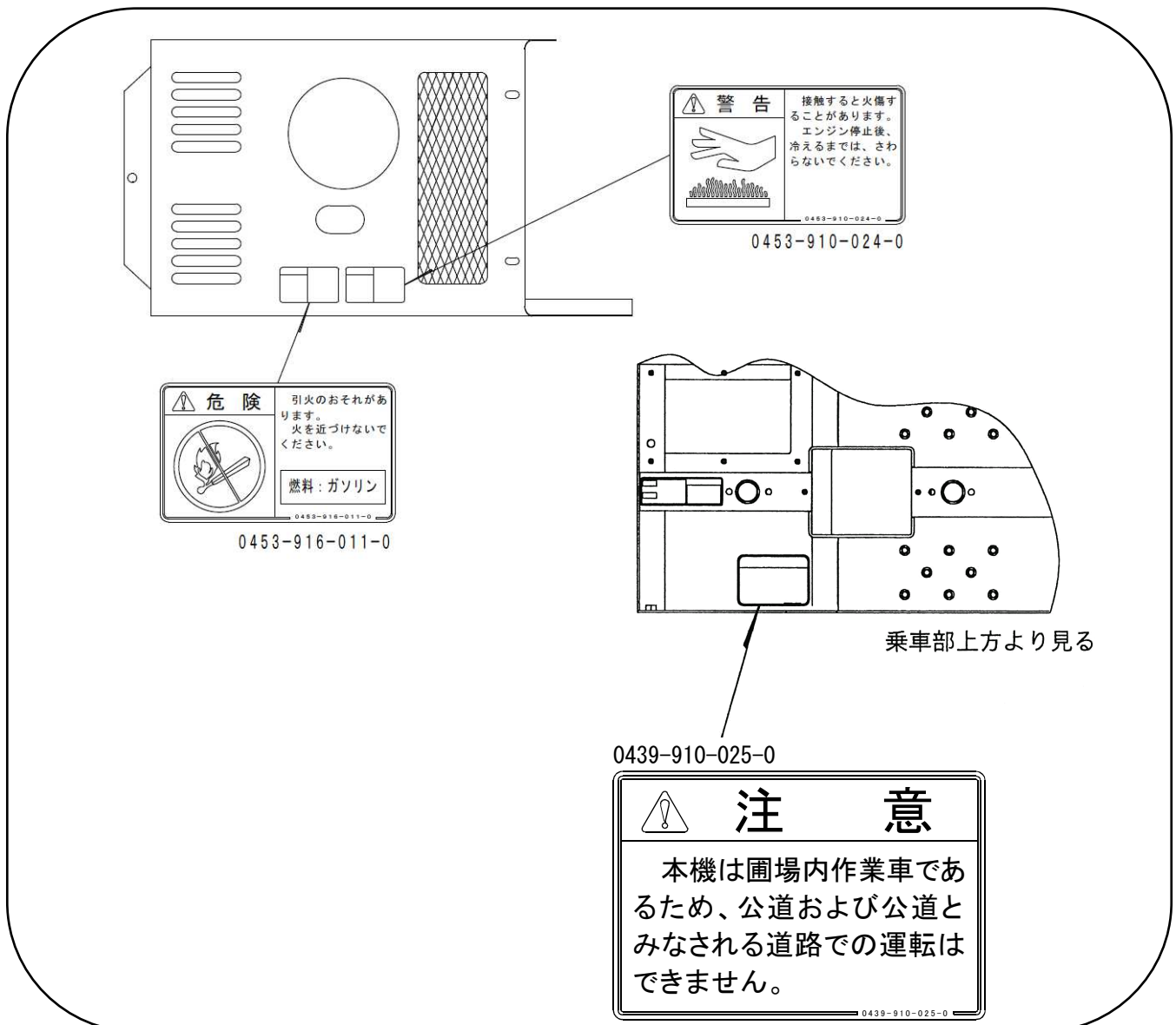
本製品をご使用される際は復唱してください。

上記内容は、安全に作業していただくために守っていただきたい重要な注意事項です。この他にも、守っていただきたい注意事項を本文中に  **重要** の記号を表示して説明しております。よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願い致します。

安全表示ラベルの注意

- 本機には、安全に作業していただくために安全表示ラベルを貼付しています。必ずよくお読みいただき、これらの指示に従ってください。
- 安全表示ラベルが汚れた場合は、きれいに拭き取り、文字、イラストが読めるようにしてください。拭き取る際は、ガソリンや有機溶剤を使用しないでください。
- 洗車の際に高圧水を使用する場合は、安全表示ラベルに水を直接かけないでください。
- 安全表示ラベルの破損や紛失、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。ラベルは、お買いあげいただきました販売店に注文してください。
- 安全表示ラベルが貼られている部品を交換する場合は、安全表示ラベルも同時にお買いあげいただきました販売店に注文してください。

安全表示ラベル貼付位置



安全表示ラベル貼付位置

0374-910-015-0

注意

し必油
てず圧
くエ
だんダ
んジン
を
かけ
たバ
の操
作は、

0453-910-022-0

危険

荷台が下降し、はさまれるおそれがあります。手や足を入れないでください。
点検・整備などを行なう時は、必ず落下防止を施してください。

0453-910-022-0

0438-910-024-0

危険

障害物に、はさまれるおそれがあります。進行方向の安全を常に確認してください。

0438-910-024-0

0453-910-027-0

注意

本機を運転するときには、必ず取扱説明書をお読みください。

1. 本機を運転するときは、周囲の安全を確認してください。
2. 運転前には、必ず点検や整備をしてください。
3. 点検や整備をするときは、必ず動力（エンジン・電源など）を停止してから行なってください。
4. 原動機の点検整備は、原動機が冷えてから行なってください。
5. 原動機は、加熱しますので周囲をいつも確認し、火災防止に、つとめてください。
6. 点検整備で取り外したカバー類は、必ず元の通りに取付けてください。

0453-910-027-0

0453-910-021-0

危険

転落・転倒するおそれがあります。路肩付近や軟弱地では十分注意して使用してください。

0453-910-021-0

0453-910-025-0

警告

急発進することがあり大変危険です。エンジンを始動するときはクラッチレバーの位置を「切」にし、周囲の安全を確認してから行なってください。

0453-910-025-0

0329-910-034-0

警告

運転中又は回転中に回転部（ベルト、チェーン、プーリ）に触れると、ケガをします。触れないでください。

0329-910-034-0

0453-910-028-0

警告

積み降し要領

自動車への積み降し、アゼの乗り換えなどアミを使用するときは、危険防止に注意のこと。

1. アミの長さは、荷台高さの4倍以上のこと。
2. アミは、スれないようにしっかりとかけ、トラックは、エンジンを止め駐車ブレーキと止めること。
3. 本機とアミを真っすぐ（平行）にすること。
4. アミ上で方向変換しないこと。
5. 低速（1速又は、R速）で運転すること。
6. 必ず誘導者を付けること。
7. 最上端では、機体の重心が移動し危険、注意のこと。
8. 本機は、駐車ブレーキと止止めをし、ロープがけのこと。

0453-910-028-0

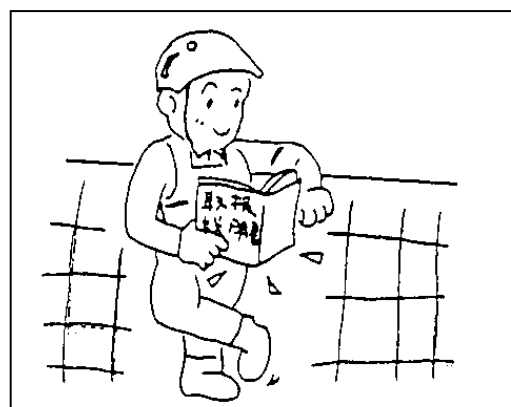
安全のポイント

安全な作業をするために

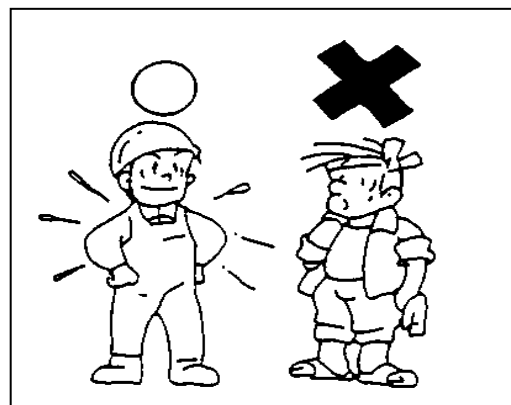
本章では、本機を効率良く安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。よくお読みいただき、十分理解されたうえで安全な作業を行なってください。

■運転者の条件

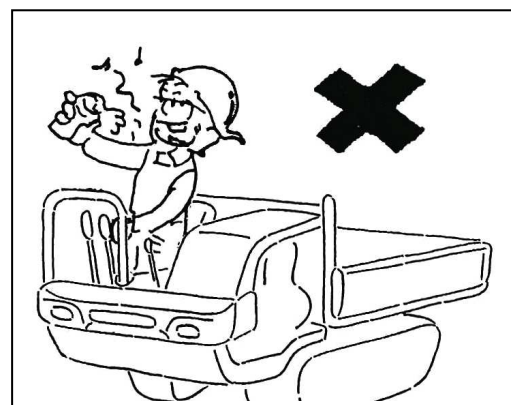
- (1) 本書をよくお読みください。



- (2) 服装は作業に適したものを着用してください。ゆとりのある衣服は、回転部に巻き込まれたり、不適切な靴はつまずいたり滑ったりして大変危険です。また、ヘルメット、保護メガネ、作業用手袋などの適切な保護具も着用してください。



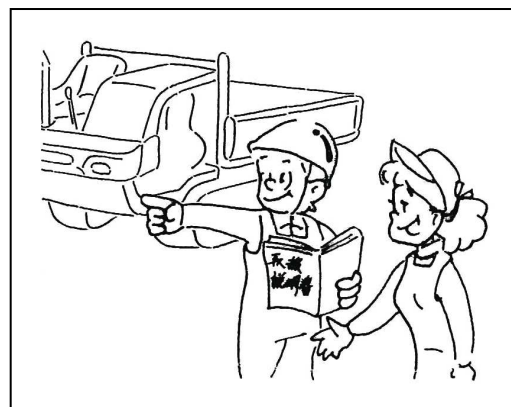
- (3) 飲酒時や過労時、妊娠している方および子供は絶対に作業をしてはいけません。予期せぬ事故に繋がるおそれがあります。作業を行なう際は、心身とも健康な状態で行なってください。また、未経験者が作業される場合は、経験豊富な方を帯同してください。



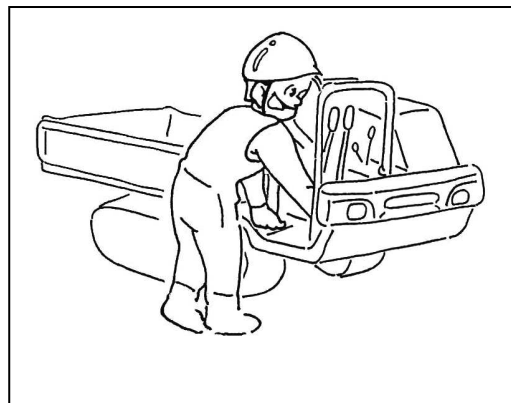
■作業前の確認

- (1) 作業前は、本書を参考に必要な点検・整備を必ず行なってください。点検を怠るとブレーキの効力の低下やクラッチの動作不良を見落とし、走行中および作業中に予期せぬ事故に繋がるおそれがあります。

なお、点検を行なう際は、必ずエンジンが停止していることを確認してください。また、エンジンが冷めている状態にて行ってください。



- (2) 保護カバー類が取り付けられていることを確認してください。カバー類が外れた状態で運転作業を行なった場合、回転部や作動部に巻き込まれたり、高温部に身体が触れ、火傷したりするおそれがあるため大変危険です。



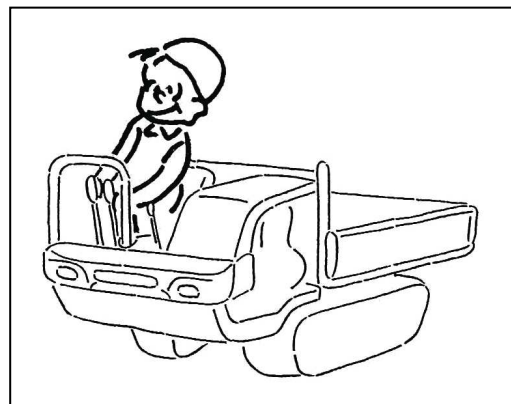
- (3) 燃料の給油や潤滑油の給油、交換の際は、必ずエンジンを停止させてください。

くわえタバコや周囲で火気を扱うことは厳禁です。守らなかった場合、火傷および火災に繋がるおそれがあるため大変危険です。また、静電気は火災の原因となります。給油の際は、身体に帯電した静電気を除電（手を本機の金属部分に触れる）してから行ってください。

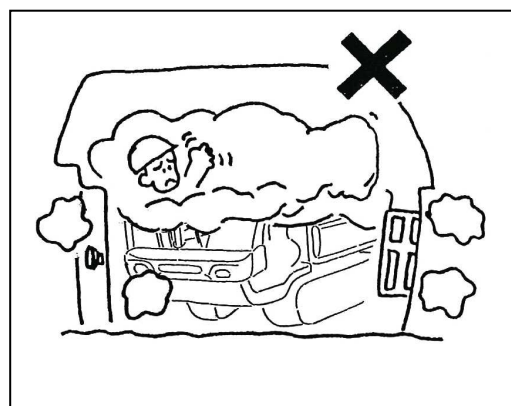


■エンジンの始動と発進

- (1) エンジンを始動する際は、必ず座席に座った状態で走行クラッチレバーを「切」位置にしてから行なってください（走行クラッチレバーが「高速」位置および「低速」位置では、エンジンは始動しません）。また、発進の際は、変速レバーやその他レバー類の位置と周囲の安全を確認してから行なってください。

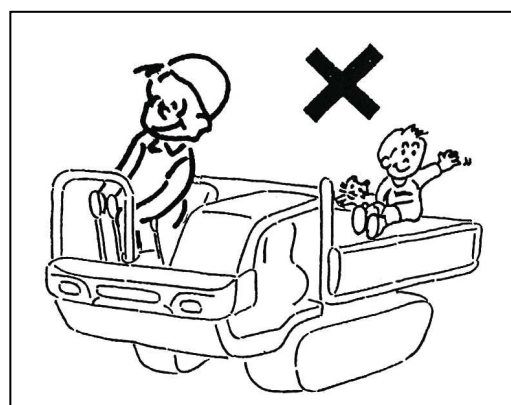


- (2) 屋内でエンジンを始動する際は、窓や扉を開放し、換気を十分に行なってください。通気性が悪い場合、排ガス中毒を起こし、身体に影響を及ぼすおそれがあるため大変危険です。



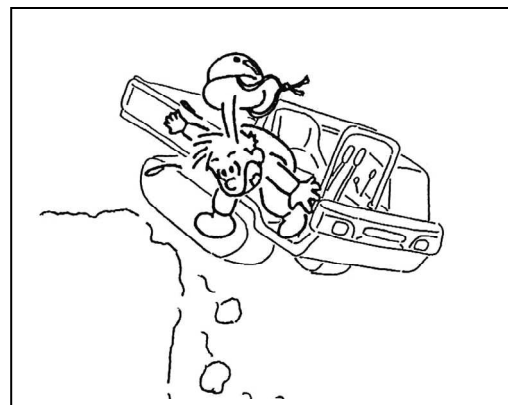
■走行する場合

- (1) いかなる場合でも荷台に人や動物を乗せて走行しないでください。走行中の急旋回や機体の重心が移動することで落下のおそれがあるため大変危険です。

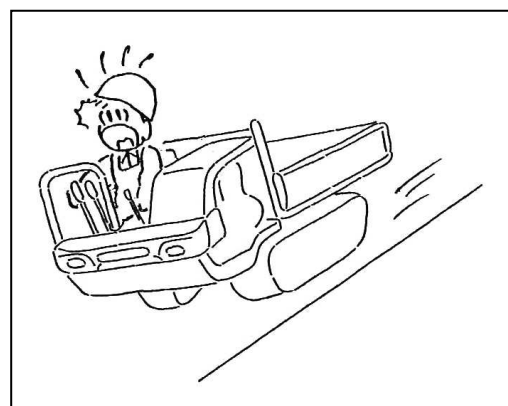


安全のポイント

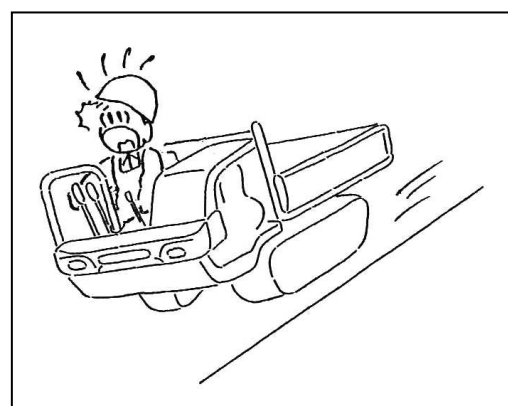
- (2) 路肩や側溝のある道および走行面の両側が傾斜している道などで走行する際は、速度を落とし、十分注意して走行してください。転倒・転落事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。



- (3) 傾斜地での上り下りは、低速および直進走行を行なってください。斜面の横断や旋回動作は、本機が転倒するおそれがあります。特に下り坂では、曲がろうとしてサイドクラッチレバーを操作した瞬間、曲がる側の走行部が滑るおそれがあり、想定している方向と逆に進むことがあるため大変危険です。



- (4) 傾斜地を下る際は、変速レバーを「1速」位置にしてください（エンジンプレーキが利きます）。なお、傾斜地を下っている途中で走行クラッチレバーを「切」位置にしたり、変速レバーを「中立」位置にしないでください。機体が加速し、衝突、転倒・転落事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。また、ブレーキの多用は、スリップや効力の低下に繋がるため大変危険です。

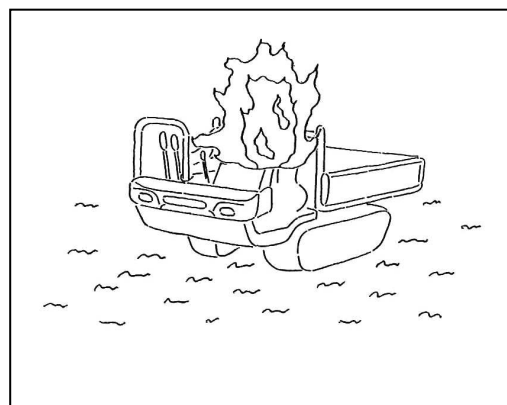


安全のポイント

- (5) 凹凸の激しい場所や軟弱地での高速走行は行なわないでください。路面状態、積載状態に応じた安全な速度で走行してください。守らなかった場合、衝突、転倒事故に繋がるおそれがあります。

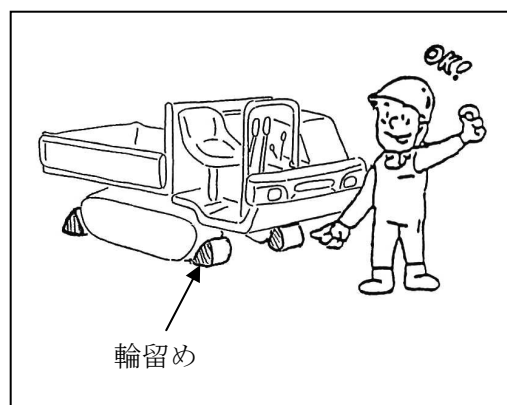


- (6) 草やワラ、木くずなどの燃えやすいものの上に本機を停車および駐車させないでください。また、周囲に油脂類や燃料などの危険物が無いことを確認してください。排気管やマフラーおよび排気ガスの熱により可燃物に引火し、火災の原因となります。



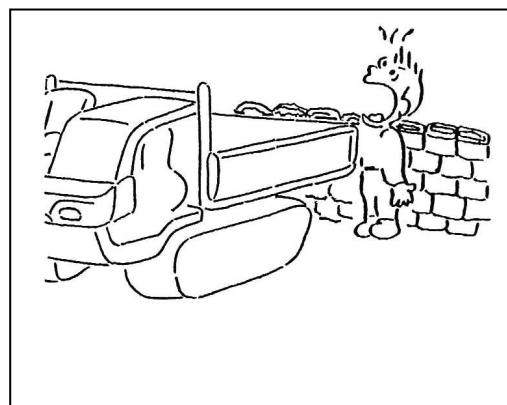
- (7) 本機は、平坦で地盤が硬く、広い場所に駐車してください。

本機から離れる際は、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止した後、輪留め（車輪止め）をしてください。更に、変速レバーを「1速」位置にして、キースイッチからキーを抜き取ってください。この時、走行クラッチレバーは「切」位置であることを確認してください。



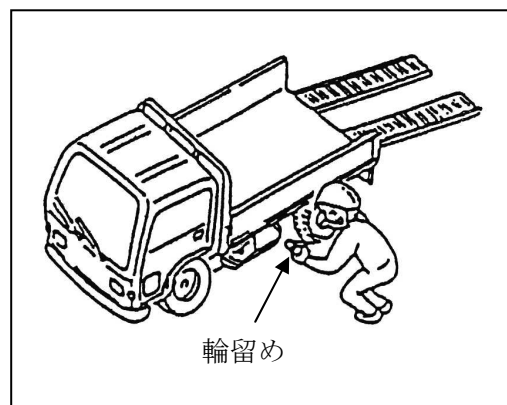
安全のポイント

- (8) わき見運転や無理な姿勢での運転は、行なわないでください。また、前進方向、後進方向に障害物が無いことを確認してください。特に後進の際は、挟まれるおそれがあるため大変危険です。



■トラックへの積み込み・積み降ろし

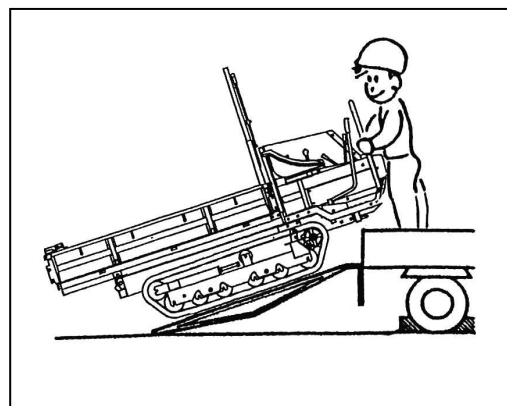
- (1) 本機をトラックに積み込み、積み降ろしする際は、トラックのエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけた後、変速レバーを「1速」または「R速」位置にして輪留め（車輪止め）をしてください。守らなかった場合、積み込み、積み降ろし時にトラックが動き出し、転倒・転落事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。



- (2) 積み込み、積み降ろしに使用するアユミ板は、強度、幅、長さが適切であり、滑りにくいものを選んでください。

アユミ板は、トラックの荷台に対して真っ直ぐにしっかりと架け、ズレないことを確認してください。

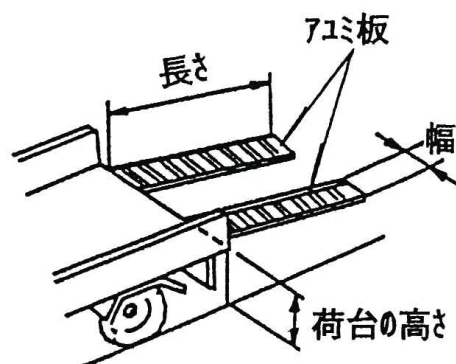
本機の積み込み、積み降ろしは、直進性を見定め、微速にて行なってください。また、アユミ板上での方向修正は、転倒・転落事故の原因となるため大変危険です。



安全のポイント

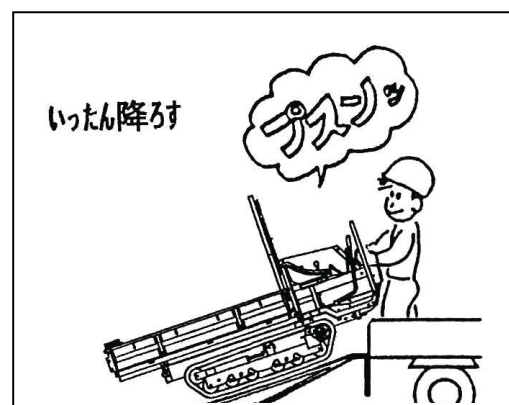
<アユミ板の選定基準>

- 長 さ…トラックの荷台の高さの4倍以上
- 幅 …本機クローラ幅の1.5倍以上
- 強 度…本機総重量の1.5倍以上（1本あたり）
- アユミ板に滑り止めが施されていること



- (3) 万一、走行中にエンストした場合は、直ぐに駐車ブレーキをかけ、走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。その後、徐々に駐車ブレーキをゆるめ、地面まで降ろしてください。機体が下降したことを確認し、エンジンを始動させてください。

本機の積み込み途中であった場合は、再度積み込みを試みてください。

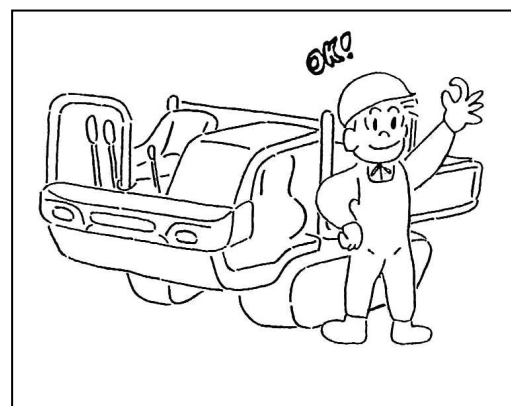


- (4) トラックで輸送する際は、本機の駐車ブレーキをかけ、輪留め（車輪止め）をした後、必ずロープまたはベルトでトラックの荷台に固定してください。また、輸送中は、急発進、急ブレーキおよび急ハンドルは控えてください。

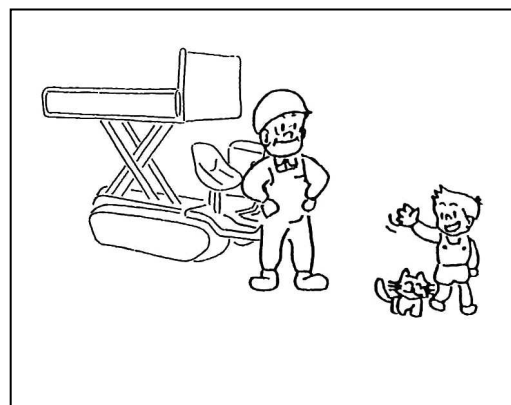
安全のポイント

■運転と作業

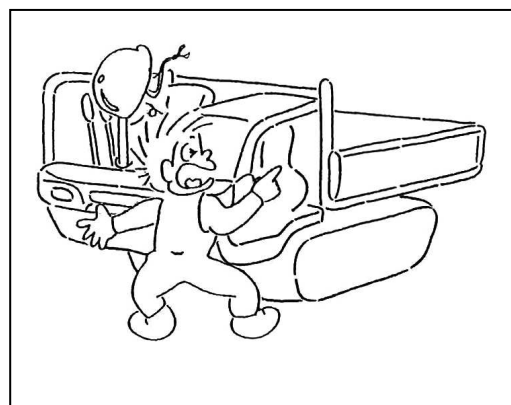
- (1) 本機の積載制限を守り、ロープまたはベルトにて荷物を荷台に固定してください。積載制限の超過は、本機の破損および転倒するおそれがあるため大変危険です。



- (2) リフトまたはダンプ操作および作業を開始する際は、必ず周囲の安全を確認してください。その際は、作業員以外の方や子供を本機に近づけないでください。また、傾斜地での作業は重心が移動するため注意してください。以上のことは傷害事故に繋がるおそれがあるため状況をよく確認してください。

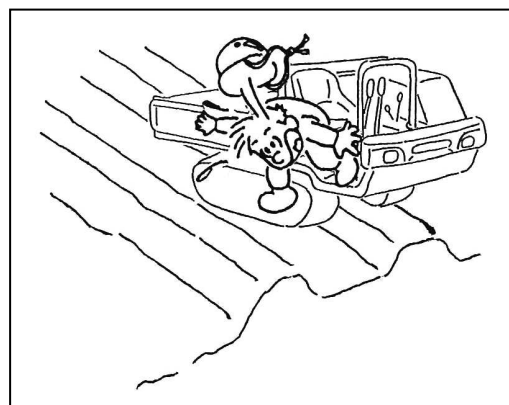


- (3) エンジン始動中は、回転部、リフトやダンプ作動部およびエンジン、マフラーなどの高温部、ならびに通電部（バッテリー、マグネットスイッチなどの端子接続部）などには触れないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。また、荷台がリフトアップまたはダンプアップしている場合、エンジンを停止させても荷台は下降するため注意してください。

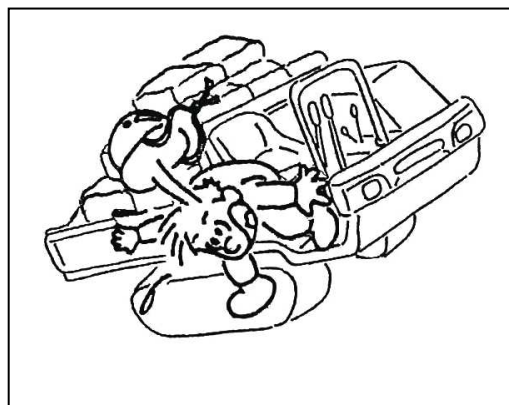


安全のポイント

- (4) 溝の横断や畦越えの際は、必ずアユミ板を使用してください。その際、溝および畦に対してアユミ板を直角に設置し、低速にて走行してください。守らなかった場合、脱輪やスリップなどにより転倒・転落し、傷害事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。また、本機の破損に繋がります。

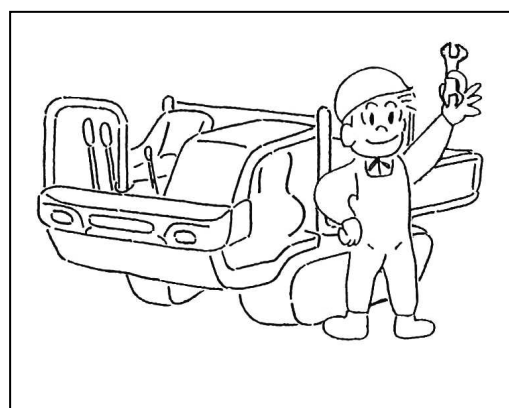


- (5) 荷物を積む際は、重心が機体の中央になること、また、重心が高くなるようにしてください。重心位置が偏っている場合や高い場合、転倒のおそれがあるため大変危険です。また、進行方向の視認ができないような荷物の積み方は行なわないでください。



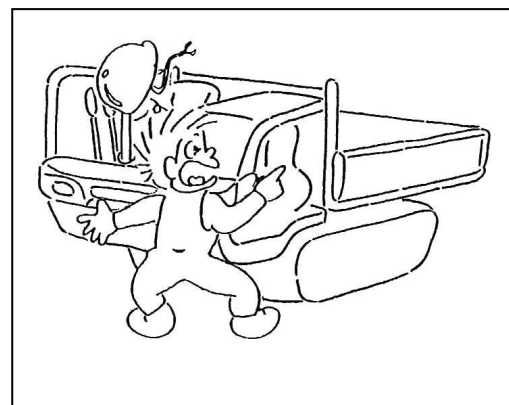
■点検と整備

- (1) 点検・整備は、平坦で地盤が硬く、明るく広い場所にて行ってください。



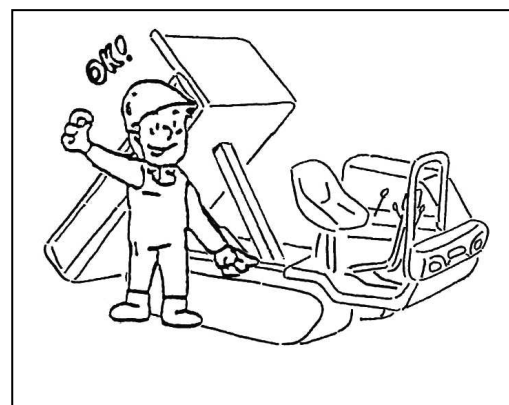
安全のポイント

- (2) エンジン停止直後に本機の清掃および点検・整備を行わないでください。必ずエンジンおよび排気部などの高温部が冷めてから行なってください。守らなかった場合、火傷をするおそれがあります。

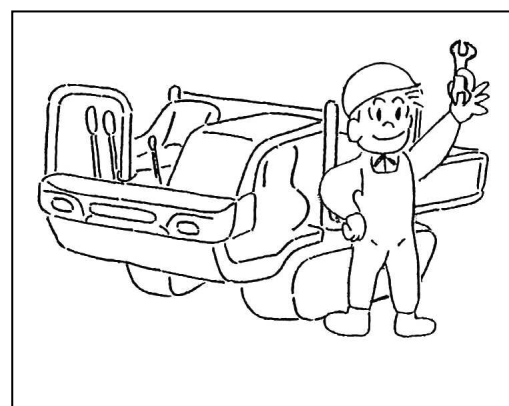


- (3) 本機の清掃および点検・整備を行なう際は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。予期せぬ事故に繋がるおそれがあります。

荷台をリフトアップまたはダンプアップさせての点検・整備の際は、本機装備品のシリンダロッドの短縮防止用の器具（シリンダストッパ）をセットするか、または十分に強度のある木材で荷台降下防止策を施してください。守らなかった場合、荷台が降下し、傷害事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。

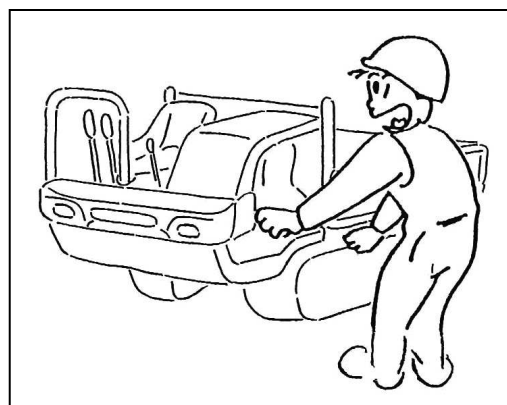


- (4) 工具類は適切なものを正しく使用してください。一時的であったとしても不適切な工具および不適正な使用方法は、点検・整備中の傷害事故や整備不良による予期せぬ事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。

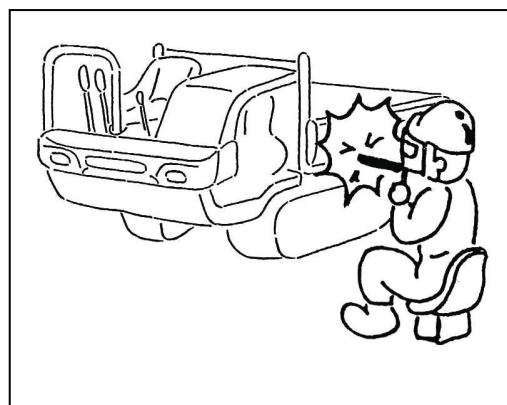


安全のポイント

- (5) 点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元の位置に取り付けてください。回転部および高温部が露出した状態では、傷害事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。

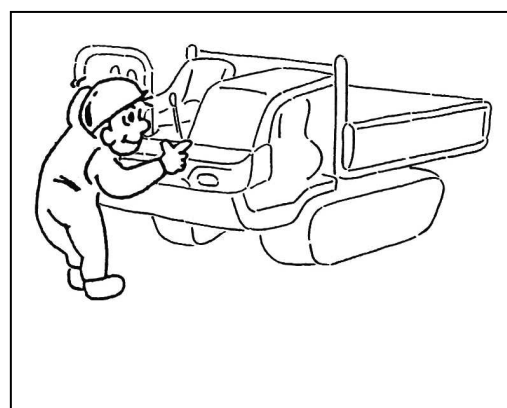


- (6) 本機の改造は絶対に行なわないでください。故障や事故の原因となります。



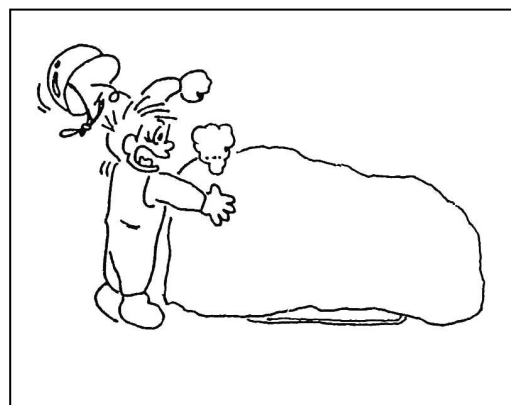
■保管と格納

- (1) 本機のエンジンを停止させ、機体に付着した泥およびゴミなどをきれいに取り除いてください。特に排気管やマフラーなどのエンジン周辺に付着したゴミは、火災の原因となります。必ず取り除いてください。



安全のポイント

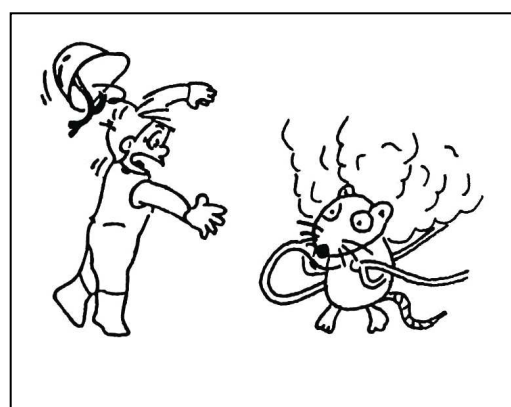
- (2) 子供や関係者以外の方が容易に触れないようシートカバーを被せるか、格納庫に保管してください。また、シートカバーを被せる場合は、高温部が完全に冷めた状態にて行なってください。高温状態でシートカバーを被せた場合、火災の原因となります。



- (3) 付着している燃料は、よく拭き取ってください。また、長期格納の際は、燃料タンクおよび気化器（キャブレター）内の燃料を取り除いてください。燃料の劣化、更には引火による火災に繋がるおそれがあるため大変危険です。

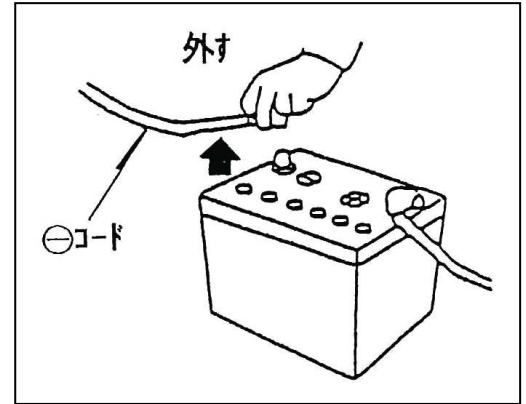


- (4) 長期格納の際は、バッテリーを本機から取り外してください。バッテリーの放電や漏電を抑えることができます。また、ネズミがケーブルをかじることでショートすることがあり、発火して火災の原因となることを防ぎます。



■電装品の取り扱い

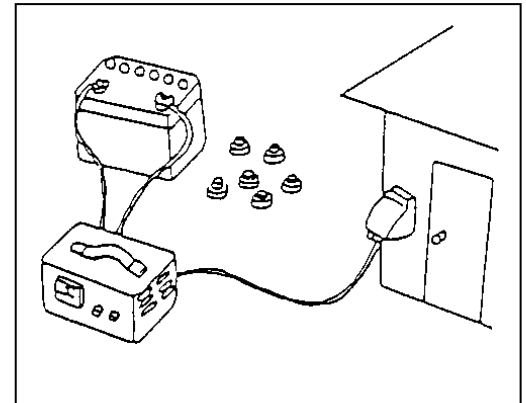
- (1) 電気配線や配線接続部の点検は、必ずエンジンを停止させ、キースイッチを切った後、バッテリーのマイナス(⊖)端子を外してから行なってください。守らなかった場合、火花が飛んだり、感電など予期せぬ事故に繋がるおそれがあります。



- (2) バッテリーを取り扱う際は、ショートやスパークさせたり、タバコおよびライターなどの火気を近づけないでください。また、身体に帯電した静電気を除電してください。

充電は通気性の良い場所にて補水キャップを外してから行なってください。守らなかった場合、引火爆発するおそれがあるため大変危険です。

バッテリー端子を取り外す際は、必ずマイナス端子を先に外してください。バッテリー端子を取り付ける際は、必ずプラス端子を先に取り付けてください。また、プラス端子とマイナス端子を同時に直接接触しないでください。感電するおそれがあります。



- (3) バッテリー液（電解液）は希硫酸（劇物）であり、大変危険です。取り扱いに十分注意してください。

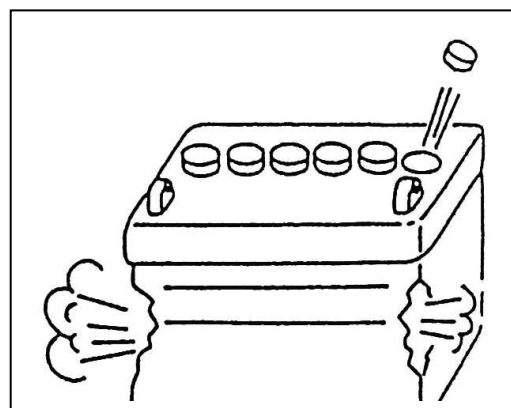
- ・硫酸ミストまたは蒸気を吸入した場合、ただちに新鮮な空気が得られる場所へ移動してください。
- ・体や衣服に付着した場合、ただちに多量の水で洗い続けてください。
- ・眼に入った場合、ただちに多量の水で15分以上洗い続けてください。

なお、応急処置後は医師の診察を受けてください。



安全のポイント

- (4) バッテリー液が下限以下の状態で使用および充電され続けた場合、バッテリー容器内の各部位の劣化が促進され、寿命を縮めるほか、破裂、爆発の原因となるため大変危険です。



■ブースタケーブル使用時の注意事項

ブースタケーブルを用いてエンジン始動する際は、ブースタケーブル附属の取扱説明書をよく読んで適正に取り扱ってください。

- (1) ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを使用してください。通電容量が小さい場合、ブースタケーブルが過熱したり、焼損するため危険です。
- (2) ブースタケーブル接続前には、エンジンを停止してください。守らなかった場合、予期せぬ事故に繋がるおそれがあります。
- (3) バッテリーの補水キャップを取り外してからブースタケーブルを接続してください。万一、引火した場合でも爆発力は低下するため被害は少なくなります。

保証とサービス

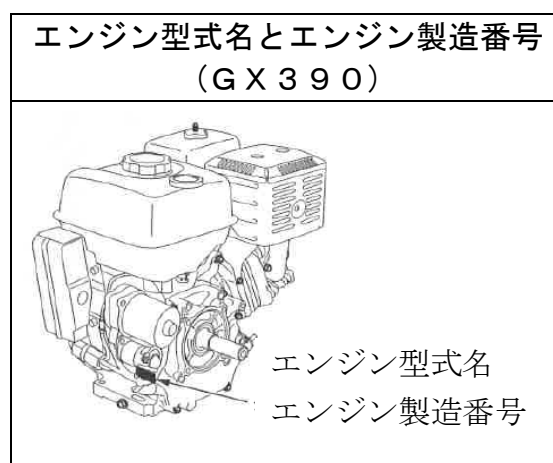
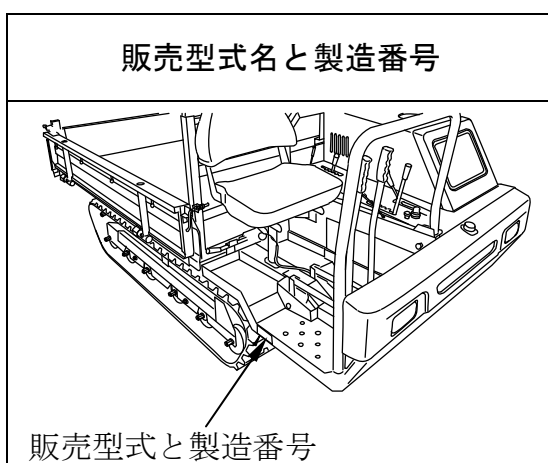
■新車の保証

本製品には、(株)アテックス保証書が添付されています。詳しい保証内容については保証書をご確認ください。

■サービスネット

ご使用中の故障や不審な点、およびサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお気軽にご相談ください。その際、以下の品名、番号をご連絡ください。

- (1) 販売型式名と製造番号
- (2) エンジン型式名とエンジン製造番号



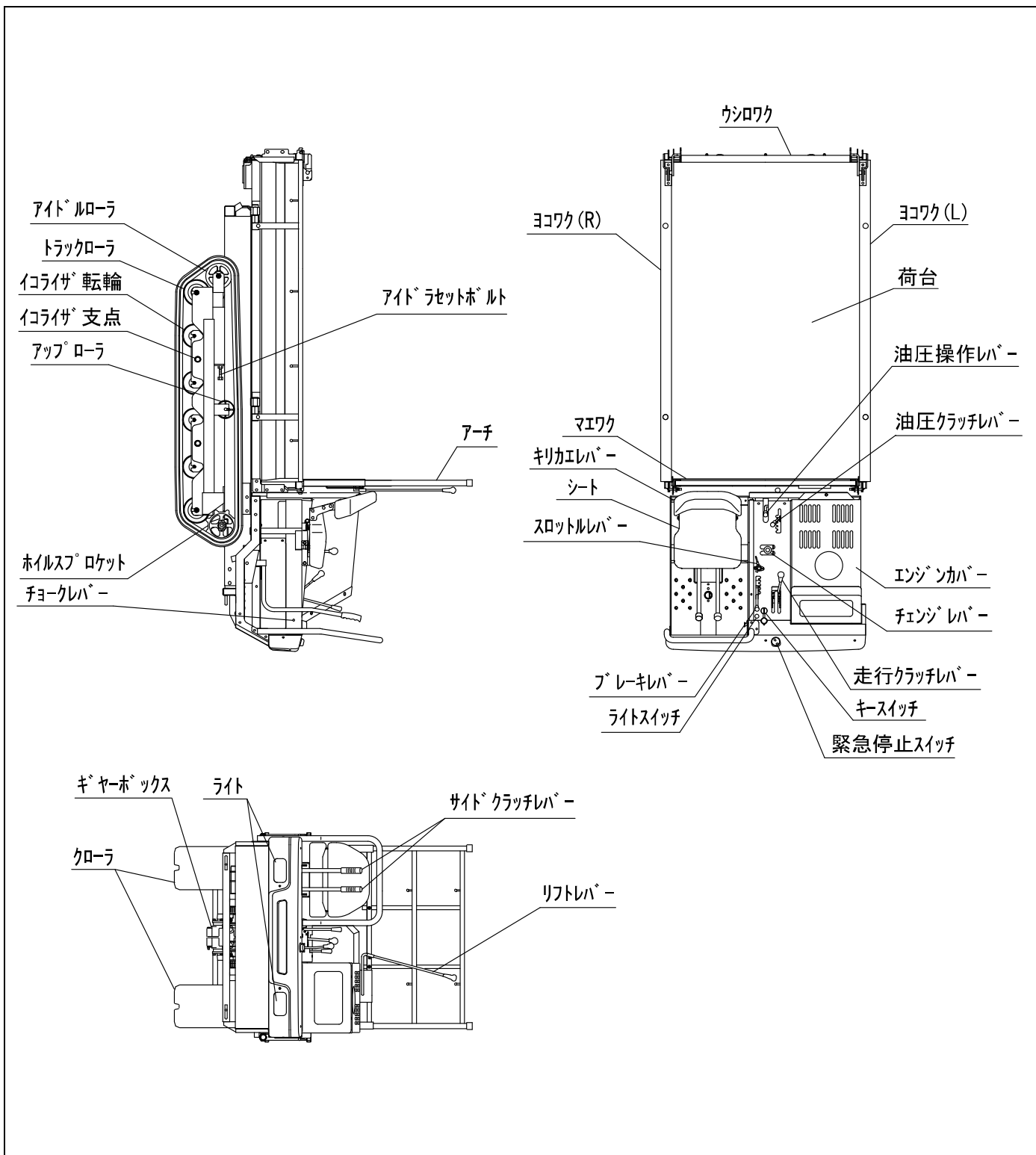
■補修部品の供給期間について

本商品における補修部品の供給期間は、製造打ち切り後から7年といたします。ただし、供給期間内であっても特殊部品につきましては、供給の可否および納期についてご相談させていただく場合があります。

原則として、補修部品の供給は上記期間にて終了いたします。ただし、供給期間終了後であっても部品によっては供給できる可能性があります。一度、お問い合わせください。その際の価格および納期につきましては、ご相談させていただきます。

各部の名称とはたらき

各部の名称



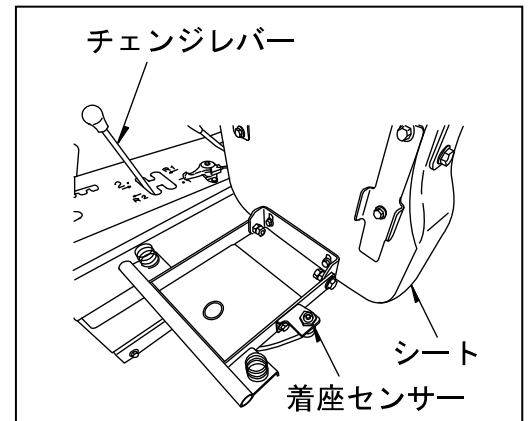
操作レバーおよびスイッチの名称とはたらき

■安全装置

本機は、前進で高速走行する場合は大変危険なため、シートの着座検知ならびにチェンジレバーの位置検知により、エンジンを停止させる安全機能を装備しています。

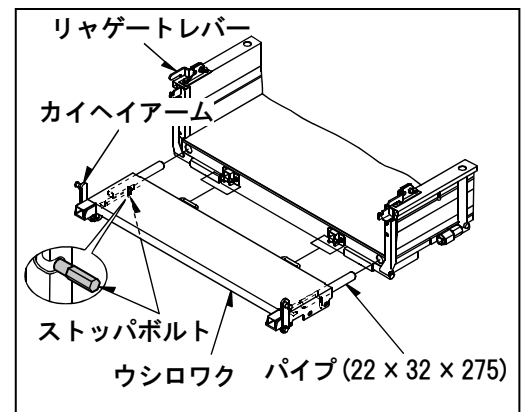
＜変速レバー(チェンジレバー)が「前進2速」位置の時＞

- ・シートに着座していない状態では、エンジンは始動しません（セルモータは回ります）。
- ・シートから退座することでエンジンは自動停止します。



■ウシロワク

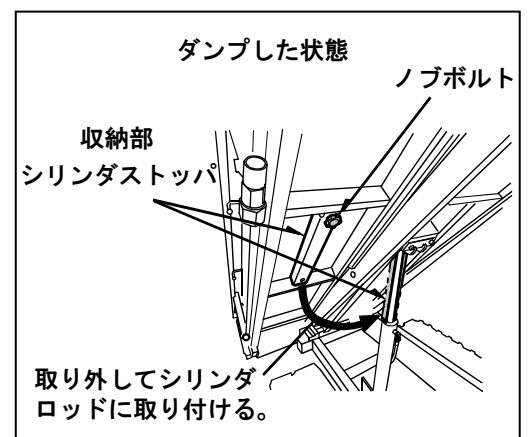
左右のリヤゲートレバーのロックを解除し、ウシロワクを開放させます。ストップボルトをスライドさせてパイプ（22×32×275）を荷台の後側面の穴に差込み、ウシロワクを水平に保持することができます。なお、カイヘイアームも回転が可能のため、ウシロワク部全面は水平が確保できます。



■シリンダストップ

荷台をリフトアップまたはダンプアップさせた状態にて点検・整備を行なう際、荷台の下降防止のために使用します。

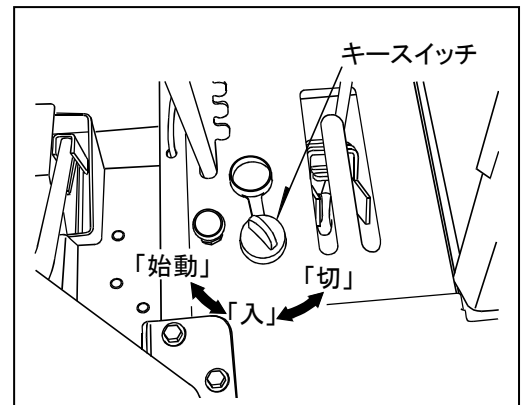
シリンダストップは荷台裏面に収納されています。使用する際は、荷台をリフトまたはダンプの上昇側に最大まで上げた後、ノブボルトを外し、シリンダストップを油圧シリンダのロッドにセットしてください。



■キースイッチ

エンジンの始動・停止を行なうスイッチです。

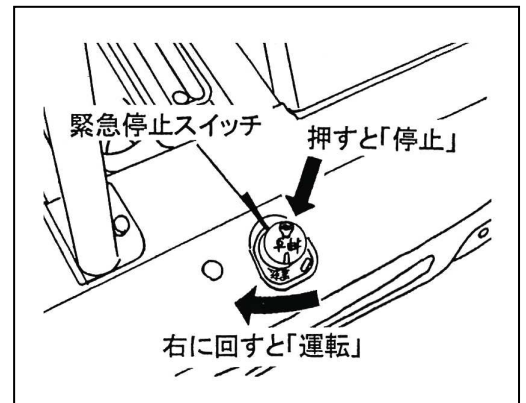
- 「切」 位置・・・エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置。
- 「入」 位置・・・エンジン回転中の位置。
- 「始動」 位置・・・エンジンを始動させる位置。
手を離せば自動的に「入」位置に戻ります。



※エンジンの始動・停止のしかたに関しては、本書 31～33 ページを参照してください。

■緊急停止スイッチ

スイッチを押して右に回すと「運転」になります。
「運転」の状態ですwitchを押すと「停止」になります。



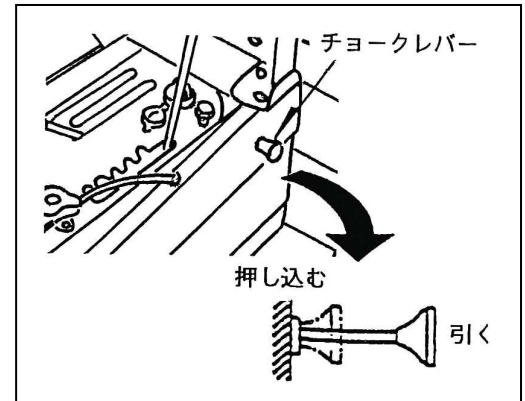
重要

- エンジンを始動する際は、緊急停止スイッチが「運転」位置であることを確認してください。「停止」位置の場合、セルモータは回りますが、エンジンは始動しません。
- 運転中、緊急停止スイッチを押すことでエンジンおよび作業装置が停止しますが、機体にブレーキはかかっていません。すみやかにブレーキレバーを操作し、駐車ブレーキをかけてください。

■チョークレバー

エンジンが冷えている時にエンジン始動を容易にするために使用します。

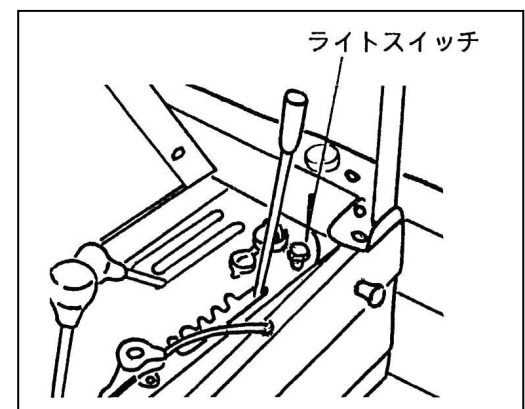
エンジン始動が困難な場合、チョークレバーを最大まで引いてエンジンを始動させてください。エンジン始動後は、必ずチョークレバーを元の位置（最小まで押し込んだ状態）まで戻してください。エンジンが暖気できている状態の時は、チョークレバーを引かずにエンジン始動を行なってください。



※エンジン始動方法の詳細は、本書 31, 32 ページを参照してください。

■ライトスイッチ

エンジンの始動・停止に関係なくキースイッチが「入」位置の時、ヘッドランプの点灯・消灯ができます。ライトスイッチを引き上げると点灯、押し込むと消灯します。



重要

- エンジンが停止した状態で長時間ヘッドライトを点灯させた場合、バッテリーあがりの原因となります。

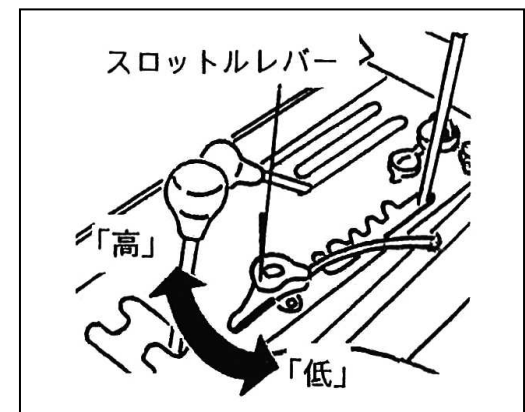
■スロットルレバー

エンジンの回転数を調節するレバーです。

「低」・・・エンジン回転数がアイドリング回転になります。

「高」・・・エンジン回転数が最高回転になります。

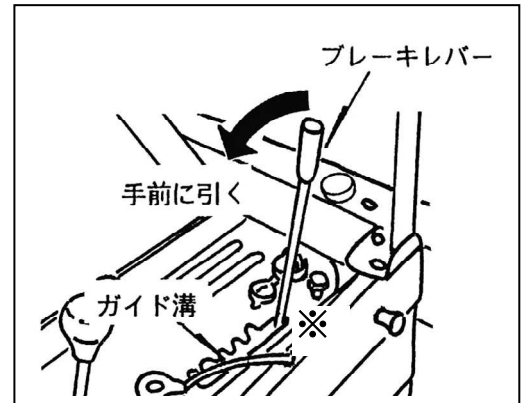
エンジン回転が最高の時に馬力（パワー）が最大になります。状況に応じて調節してください。



■ブレーキレバー

注意 ● 停車および駐車の際は、必ず駐車ブレーキをかけ、輪留め（車輪止め）を行なってください。守らなかった場合、機体が自然に動き出し、大変危険です。

乗車の際、ブレーキレバーを手前に引くとブレーキがかかります。また、ブレーキが利いた位置でガイド溝にかけると駐車ブレーキになります。



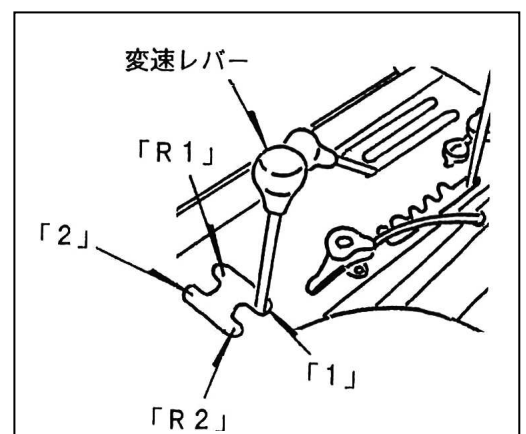
重要 ● 駐車ブレーキをかけた状態で走行した場合、ブレーキを損傷してしまいます。また、その時にサイドクラッチレバーを操作することで片側旋回したまま戻らなくなるおそれがあります。走行前に駐車ブレーキを解除（22 ページの図中の※印位置まで戻す）したことを確認してください。

■変速レバー（チェンジレバー）

・チェンジレバーの位置

1	前進 1 速
2	前進 2 速
R 1	後進 1 速
R 2	後進 2 速

前進 2 段・後進 2 段の変速設定ができます。変速は、走行クラッチレバーを「切」位置に戻し、本機を完全に停止させてから行なってください。



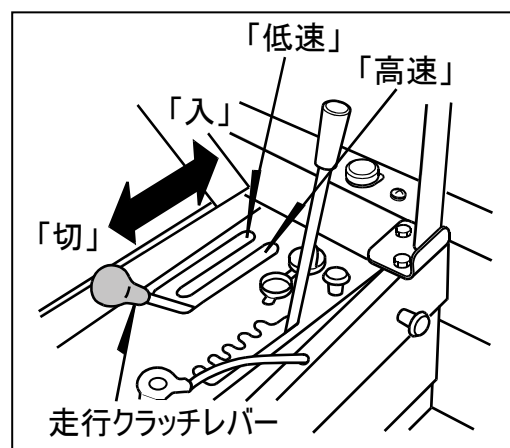
重要

- 変速レバーの無理な操作は、トランスミッション内部の破損の原因となります。絶対に行なわないでください。
- 走行中の変速レバー操作は絶対に行なわないでください。ギヤが破損、損傷してしまいます。
- 変速レバーを操作する際は、走行クラッチレバーを「切」位置にし、本機を完全に停止させてから行ってください。
- 変速レバーがスムーズに切り替えできない場合は、走行クラッチレバーの「入」・「切」操作を数回繰り返した後、再度変速レバーを操作してください。

■ 走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを「高速」または「低速」側の「入」位置にすることで、エンジンの回転がベルトによってトランスミッションへ伝達されます。

変速レバーとの組み合わせにより、前進4段・後進4段の変速ができます。路面状態、積載状態の条件に合った速度を選択し、走行してください。

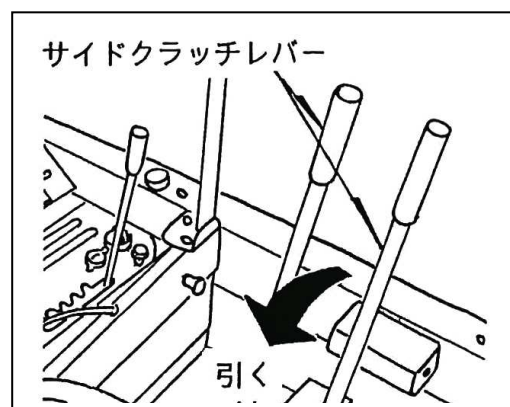


■ サイドクラッチレバー

旋回側のサイドクラッチレバーを手前に引くことで機体が旋回します。

旋回は十分に速度を落としてから行なってください。また、荷物を積むことで（機体総重量が重くなる）旋回時の負荷および操作荷重が大きくなります。

緊急時、左右両方のサイドクラッチレバーを同時に引くことでブレーキがかかり、機体が停止します。



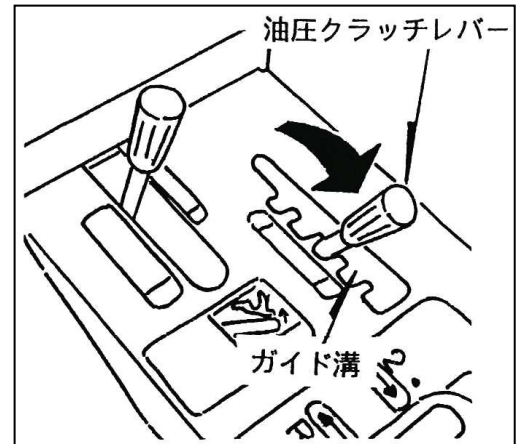
重要

- 本機のサイドクラッチ部はブレーキを併用しています。旋回時のサイドクラッチレバーの引き加減で旋回半径が変わりますが、サイドクラッチレバーを引ききらずにブレーキを滑らすように使用した場合、ブレーキシューの寿命が極端に短くなります。

■油圧クラッチレバー

エンジンの回転を油圧装置に伝達するためのレバーです。

油圧クラッチレバーを本機前方へ向かって押し、テンションが利いた状態でガイド溝にかけた際、エンジン回転が伝達されます。常時、この状態を維持してください。



重要

- 油圧クラッチレバーが「切」位置の場合、エンジンの回転が油圧装置に伝達されず、リフトおよびダンプ作業ができません。

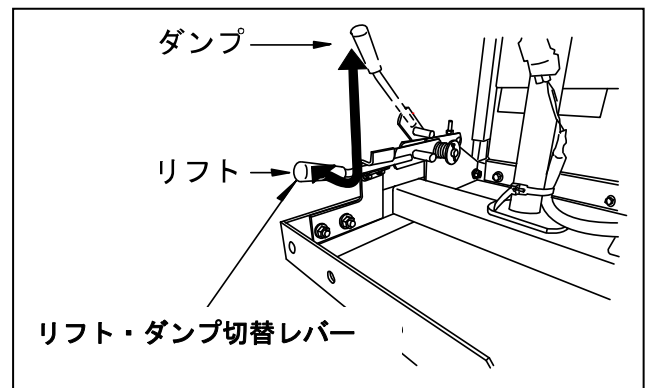
■リフト・ダンプ切替レバー

注意

- リフト・ダンプ切替レバーの操作（切り替え）は、荷台が完全に下降した状態にて行なってください。荷台が少しでも上昇している時は、絶対に操作しないでください。切替部の破損の原因となります。

荷台のリフトおよびダンプ作業の切り替えを行なうレバーです。

リフト・ダンプ切替レバーを下方へ降ろし、ガイドに固定することでリフトアップができます。また、レバーを上方へ上げることでダンプアップができます。



■油圧操作レバー

⚠危険

- 荷台のリフトおよびダンプ操作を行なう場合、必ず本機を停止させ、駐車ブレーキをかけた状態にて行なってください。
- 荷台が下降し、挟まれるおそれがあります。手や足を荷台部へ入れないでください、

⚠警告

- 走行中のリフトおよびダンプ操作は、絶対に行なわないでください。油圧装置の破損、損傷および誤操作による事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。

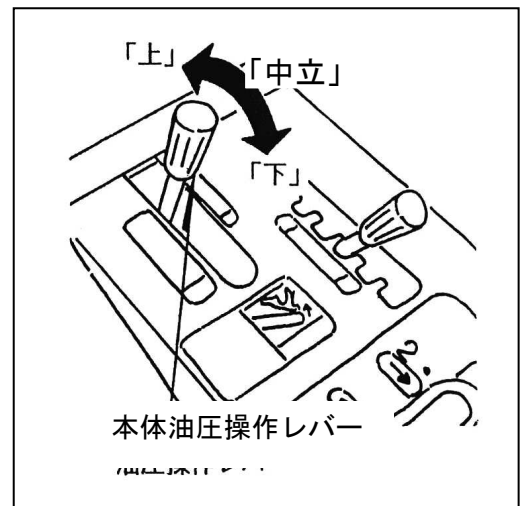
⚠注意

- リフトおよびダンプ操作の際、必ずエンジン運転状態にて行なってください。エンジン停止状態にて荷台を下降させた場合、油圧シリンダ内が真空となり、スムーズにリフトおよびダンプ作業ができなくなります。

●本体部油圧操作レバー

エンジン運転状態の時、本体部油圧操作レバーを「上」・「下」位置へ操作することで、荷台のリフトおよびダンプ作業が行なえます。

作業状態	レバー位置	荷台の動き
リフト作業	「上」	リフト上昇
	「下」	リフト下降
ダンプ作業	「上」	ダンプ上昇
	「下」	ダンプ下降

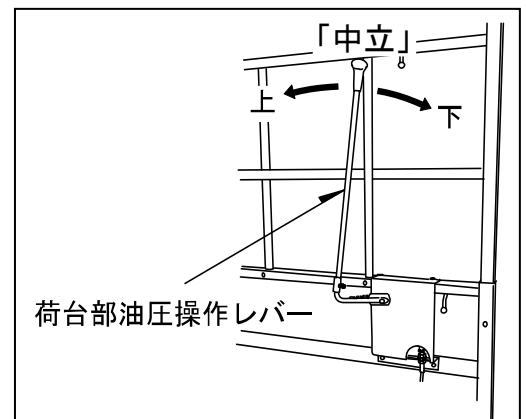


重要

- 荷台下降状態から油圧操作レバーにて荷台上昇操作を行なった際、油圧ポンプのリリーフ弁が作動（「ピー」という音が発生）して荷台が上昇しない場合、荷物を積み過ぎている可能性があります。積載量を減らして再度操作を行なってください。なお、20秒以上連続でリリーフ弁を作動させないでください。リリーフ弁が作動したら速やかに油圧操作レバーを「中立」位置に戻してください。油圧ポンプの破損に繋がります。
- 周囲の安全を確認してから作業を行なってください。
- 凹凸の場所や軟弱地および傾斜地での操作は、行なわないでください。

●荷台部油圧操作レバー

エンジン運転状態の時、荷台部油圧操作レバーを「上」・「下」位置へ操作することで、荷台のリフト作業が行なえます。



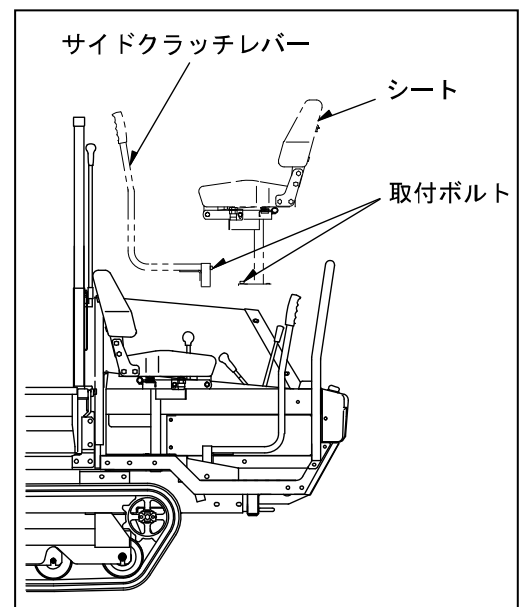
重要

- 荷台部油圧操作レバーは、リフト・ダンプ切替レバーが「リフト」位置になっていることを確認してから操作してください。

■シート

本機は、シートおよびサイドクラッチレバーの取り付け位置を変更することで、乗車時の通常の前向き運転から反対の後向き運転を行なうことが可能です。

サイドクラッチレバーおよびシートベースの各取付ボルトを外し、所定の位置（右図参照）へ組み換え後、再度取付ボルトにて固定してください。



運転前の準備

運転前の点検について

⚠危険 ●点検前は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。荷台をリフトアップまたはダンプアップさせた状態での点検は、本機装備品のシリンダストッパをセットするか、十分に強度のある木材で荷台落下防止策を施してください。守らなかった場合、傷害事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。

■始業点検

故障を未然に防ぐには本機の状態をよく知っておくことが大切です。始業点検は、使用前には毎回欠かさず行なってください。

点検は以下の順序で実施してください。

- | | |
|-----------------------|-----------|
| (1) 前回使用時の異常箇所の整備 | |
| (2) エンジン停止時の確認 | |
| ●ギヤボックスのオイル量および汚れ | 42・43 ページ |
| ●油圧ポンプのオイル量および汚れ | 43 ページ |
| ●油圧システムの油漏れ | — |
| ●燃料の確認と燃料キャップの締め付け | 44 ページ |
| ●エンジンのオイル量および汚れ | 44・45 ページ |
| ●燃料フィルタポットの水、沈殿物の点検 | 44 ページ |
| ●エアクリーナの清掃 | エンジン取扱説明書 |
| ●バッテリーの点検 | 46・47 ページ |
| ●走行ベルトの張り度合と損傷 | 48 ページ |
| ●クローラの張りおよび摩耗度合と損傷 | 54 ページ |
| ●本機各部の損傷およびボルト・ナットの緩み | — |
| ●駐車ブレーキ（ブレーキレバー）の作動 | 24・51 ページ |
| (3) エンジン始動中の確認 | |
| ●スロットルレバーの作動 | 23 ページ |
| ●排気ガスの色、異常音 | — |

(4) 走行中（徐行）の確認

- 走行クラッチレバーの作動 25・48 ページ
- サイドクラッチレバーの操作荷重および戻り 25・48～51 ページ
- 走行部の異常音 —

運転のしかた

エンジンの始動と停止のしかた

■エンジンの始動

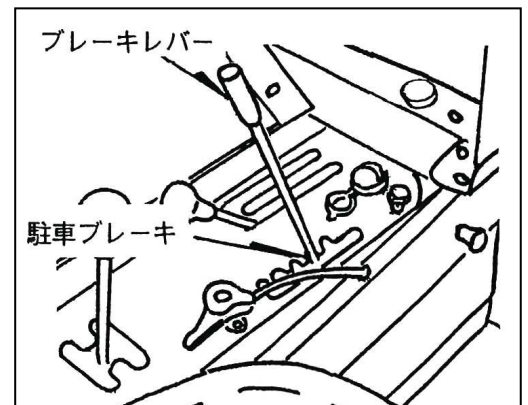
警告

- 屋内にてエンジンを始動する際は、窓や扉を開放し、換気を十分に行なってください。通気性が悪い場合、排気ガス中毒を起こし、身体に影響を及ぼすおそれがあるため大変危険です。
- エンジンを始動する際は、必ず座席に座った状態で、走行クラッチレバーやその他のレバー類の位置と周囲の安全を確認してから行なってください。守らなかった場合、予期せぬ事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。
- やむを得ずリコイルスタータにてエンジンを始動する際は、必ず走行クラッチレバーを「切」位置にし、周囲の安全を確認してから行なってください。

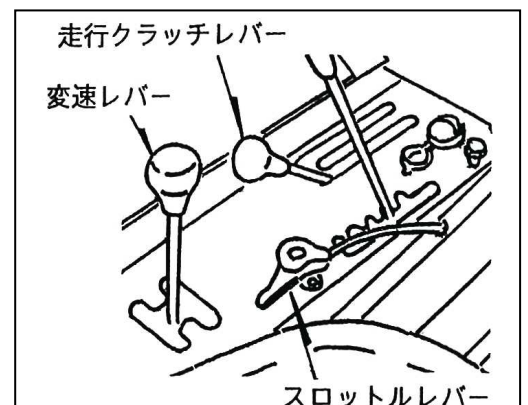
注意

- 暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけてください。守らなかった場合、本機が自然に動き出し、大変危険です

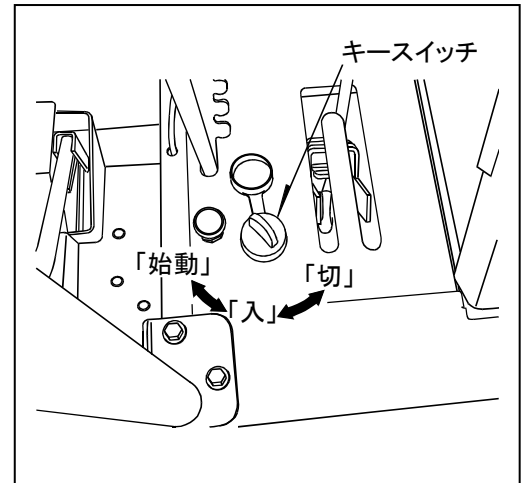
- (1) 座席に座り、駐車ブレーキがかかっていることを確認します。



- (2) 走行クラッチレバーを「切」位置にします。
(3) 変速レバーを「中立」位置にします。
(4) スロットルレバーを中回転以上まで回します。



- (5) キースイッチにキーを差し込み、キーを「始動」位置に回すことでエンジンが始動します。エンジンが始動したら、すみやかにキーから手を離します。



重要

- エンジンが冷えている時に、次の操作をすることでエンジンが始動しやすくなります。
チョークレバーを引き、キーを回します。エンジン始動後は、チョークレバーを徐々に戻します。
- バッテリー上がりや断線などによりセル始動ができない場合は、キーを「入」位置に回し、リコイルスタータにてエンジンを始動させることができます。ただし、スタータロープは最長まで引ききらないでください。また、引いたスタータロープはその位置で手放さず、ゆっくりと元の位置に戻してください。
- 本機は安全性確保のため、始動安全装置を備えています。
セル始動の場合、走行クラッチレバーが「切」位置の状態の時、エンジンは始動しない構成となっています。また、変速レバーが「前進2速」位置の状態の時、シートに着座していないとエンジンは始動しません（本書21ページ参照）。
- エンジンのセルモータは大電流を消費します。セルモータの5秒以上の連続使用は控えてください。連続使用した場合、セルモータが破損します。なお、5秒以内で始動しない場合は、10秒以上待機してから再操作してください。
- エンジンを始動する際、緊急停止スイッチが「運転」位置であることを確認してください。「停止」位置の場合、セルモータは回りますが、エンジンは始動しません。
- エンジン運転中は、キーを「始動」位置に回さないでください。セルモータが破損します。
- エンジンの暖機運転をせず、走行および作業を開始した場合、エンジンの寿命が短くなります。3～5分程度の暖機運転を行なってください。

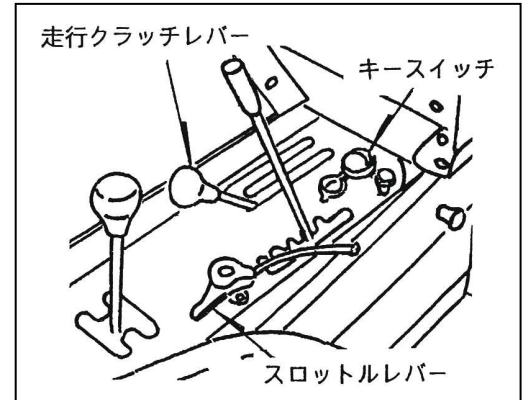
■エンジンの停止



警告

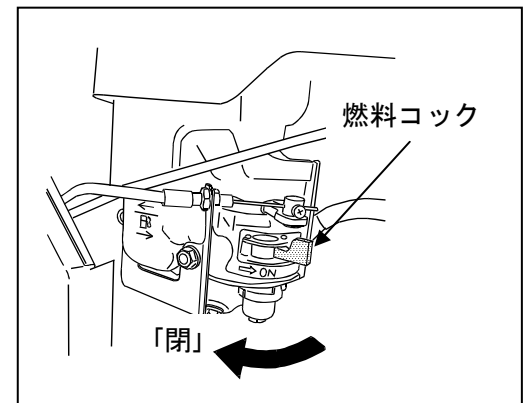
●エンジンに触れると火傷をするおそれがあります。エンジン停止後、冷めるまでは触らないでください。

- (1) 走行クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキをかけます。
- (2) スロットルレバーを「低」位置にします。
- (3) キーを「切」位置にすることでエンジンが停止します。



重要

●万一、エンジンが停止しない場合は、燃料コックを閉じて（燃料供給停止）エンジンが停止するまで待機してください。



重要

- エンジンを高回転のまま停止させないでください。
- 長時間の運転後、または高温状態でエンジンを停止させた場合、アフターバーンが発生します。アイドリング回転で3～5分程度待機した後、エンジンを停止してください。
- エンジンを停止している時は、キーが「切」位置であることを確認してください。キーが「入」位置の状態の時、バッテリーの電流を消費し、バッテリーあがりの原因となります。

走行のしかた

■発進のしかた

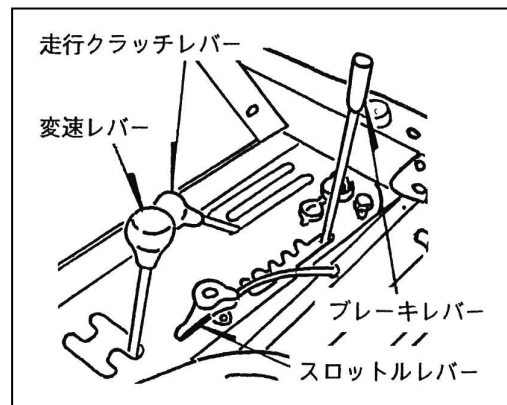
⚠危険

- 路肩付近や軟弱地では転倒・転落のおそれがあります。十分注意して使用してください。
- 進行方向の安全を常に確認してください。特に後進の際は、人やモノを挟んだり、ご自身が挟まれるおそれがあります。

⚠警告

- エンジン運転中に回転部（ベルト、プーリなど）に触れると怪我をします。絶対に触れないでください。

- (1) 走行クラッチレバーが「切」位置であることを確認し、変速レバーを所望の変速位置にします。
- (2) ブレーキレバーを「切」位置にします。
- (3) 走行クラッチレバーをゆっくりと「低速」または「高速」位置へ入れると、発進（走行）します。
- (4) スロットルレバーを操作して走行速度を調節します。



■旋回のしかた

旋回のしかたに関しては、25, 35～38 ページを参照してください。

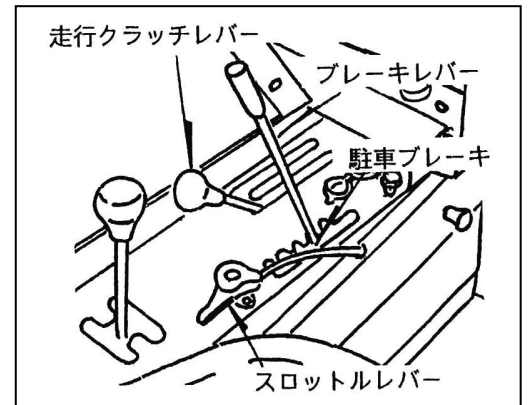
■停車・駐車

⚠警告

- 停車・駐車の際は、必ず駐車ブレーキをかけてください。また、平坦で地盤が硬く、広い場所を選んでください。
- 本機から離れる際は、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止した後、輪留め（車輪止め）をしてください。更に、変速レバーを「1速」位置にして、キースイッチからキーを抜き取ってください。
- 緊急時以外は、急ブレーキをかけたり、サイドクラッチレバーによる急停止操作（本書 25 ページ参照）を行なわないでください。機体やギヤボックスに負荷がかかり、本機の故障の原因となります。また、急な坂道での乗車の際は、本機から転落するおそれがあります。
- 本機を草やワラ、木くずなどの燃えやすいものの上に停めないでください。排気管やマフラーおよび排気ガスの熱により可燃物に引火し、火災の原因となります。

運転のしかた

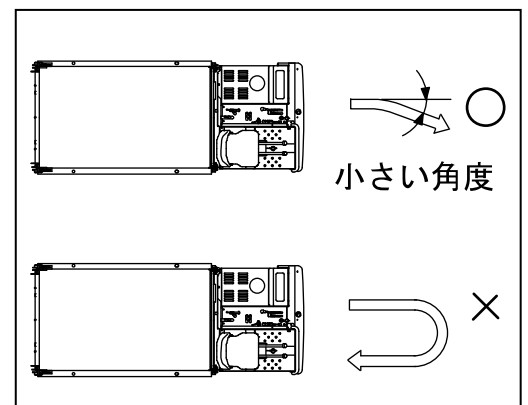
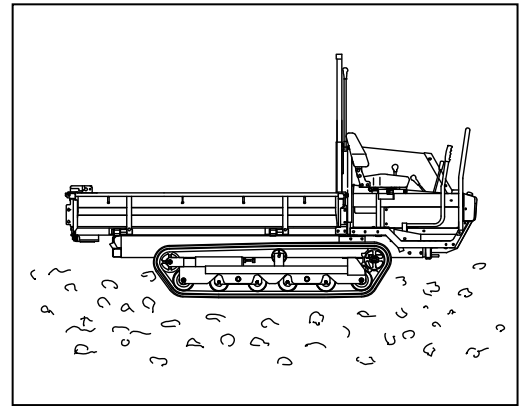
- (1) 走行クラッチレバーを「切」位置にします。
- (2) ブレーキレバーにてブレーキをかけ、本機が完全に停止してから駐車ブレーキをかけます。
- (3) スロットルレバーを「低」位置にし、エンジン回転数を下げます。
- (4) エンジンを停止します（本書 33 ページ参照）。



■ゴムクローラへの注意

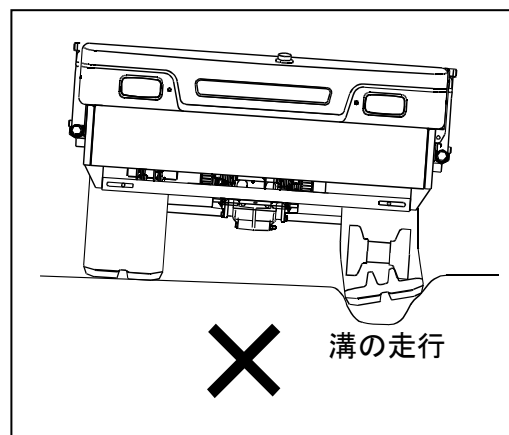
重要

- 鉄道の路線敷や砂利道のように小石がたくさんある場所において、その場旋回をした場合、ホイールプロケットおよび各転輪とクローラの中に石が入り込み、破損や損傷のおそれがあります。急旋回や回転半径の小さい蛇行運転は行わず、直進および旋回角度の小さい方向転換にて運転するよう心がけてください。



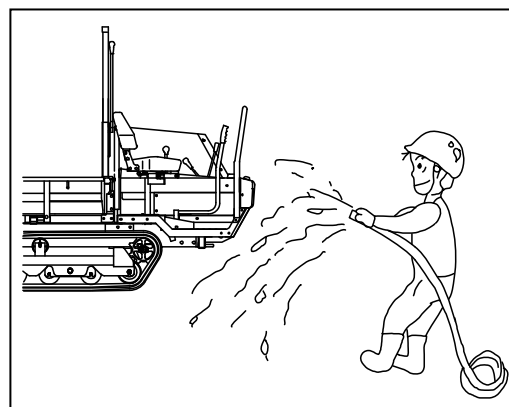
重要

- 轍や水の浸食によって溝が形成された場所を走行している際、サイドクラッチレバーを操作することでクローラが転輪から外れ、脱輪するおそれがあります（脱輪する際に異音が発生する場合があります）。やむを得ず走行する場合は、サイドクラッチレバーの操作をできるだけ控え、低速にて安全に走行してください



重要

- 湿田およびぬかるんだ場所を走行した際、ホイールプロケットに泥やワラなどの異物が混入している場合があります。水洗いで必ず取り除いてください。
- 走行部に付着した土や泥が乾いて固まってしまった場合、走行中にホイールプロケットおよびクローラが破損や損傷するおそれがあります。
- 本機の使用後は、きれいに掃除してください。



■ 坂道の走行

危険

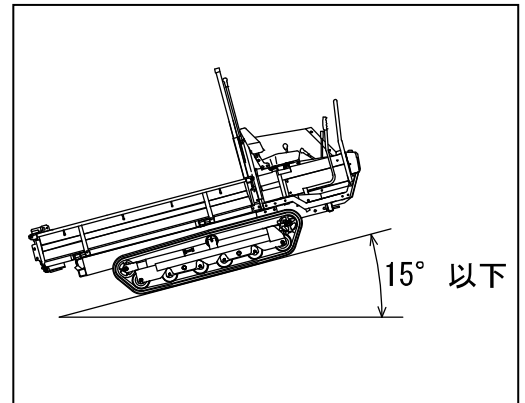
- 坂道走行中にエンジンが停止した場合、ブレーキレバーを直ぐに引いて駐車ブレーキをかけてください。
- 坂道にてエンジン停止中に駐車ブレーキを解除した場合、本機が自然に動きだし、大変危険です。

注意

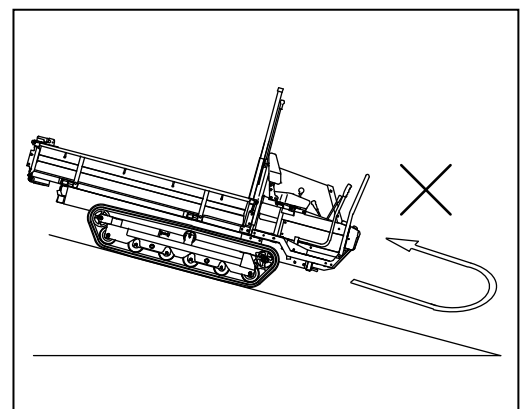
- 下り坂での旋回は、平地での旋回時よりも旋回半径が大きくなります。十分注意してください。

運転のしかた

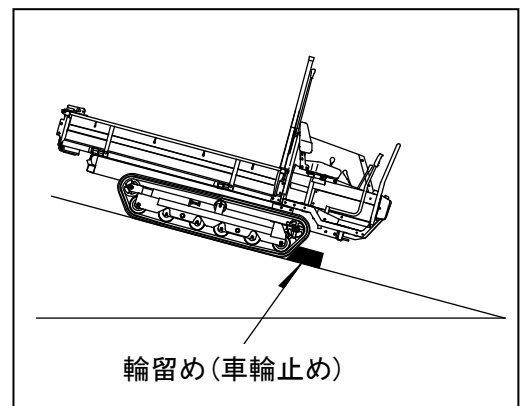
- (1) 本機は傾斜角 15 度以下の坂道で使用してください。



- (2) 坂道では、必ず前進 1 速または後進 1 速で走行し、Uターンおよび変速は行なわないでください。



- (3) 坂道で駐車する場合は、走行クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキをかけた後、必ず輪留め（車輪止め）をしてください。



重要

- 坂道では急旋回およびUターンは行なわないでください。転倒のおそれがあります。
- 下り坂で停止する場合は、スロットルレバーを「低」位置にし、走行クラッチレバーを「切」位置にした後、素早くブレーキレバーにて駐車ブレーキをかけてください。
- 坂道の状況に応じた安全な速度で走行してください。速度を出し過ぎた場合、予期せぬ事故に繋がるおそれがあります。
- エンジンは、傾斜角 20 度以上傾けて使用した場合、焼き付くことがあります。

■その他の場所の走行

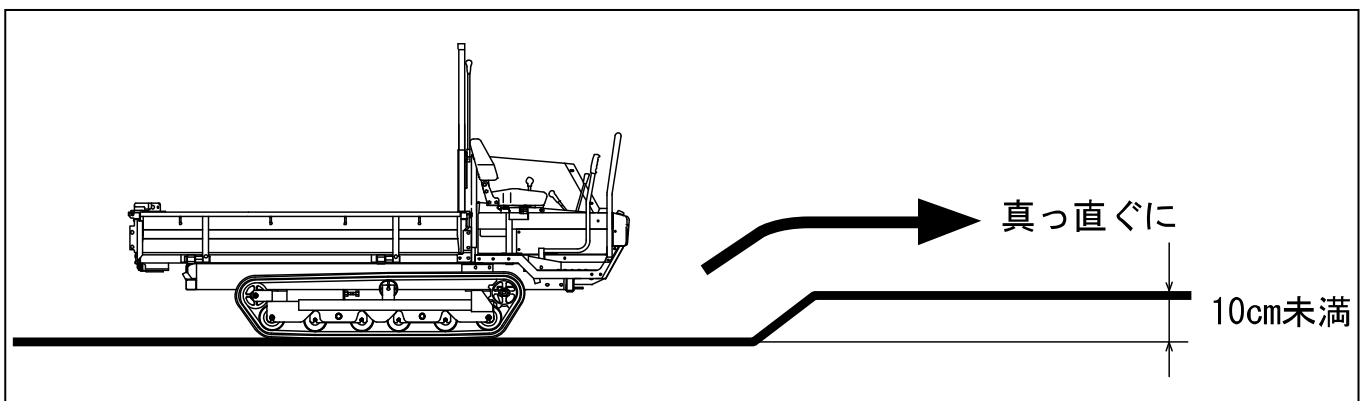
注意

- 畦越えや10cm以上の段差および圃場への出入りで急傾斜の場所を走行する際は、必ずアユミ板を使用してください。アユミ板の選定基準は、本書11ページを参照してください。

凹凸の場所の走行はできるだけ避け、本機に衝撃を与えないようにしてください。

10cm以下の段差は、段差に対して直角に乗り越えてください。

上記の場所は、必ず低速で走行してください。



積載要領

■最大作業能力

警告

- 最大作業能力以上は積載しないでください。転倒のおそれがあります。

各条件での積載量を下表に示します。安全な作業を行なうためにも必ず守ってください。

勾配	積載量（最大作業能力）
平坦地	1200kg以下
15°以下の下り坂	840kg以下
15°以下の登り坂	840kg以下

■機体バランス

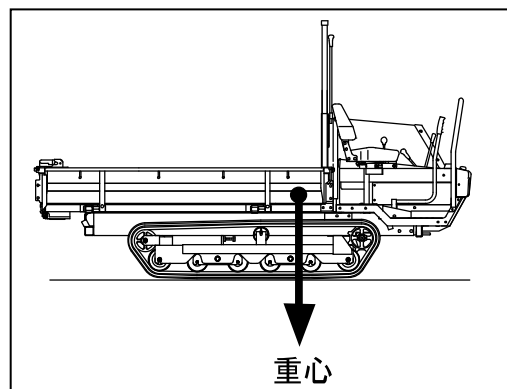
⚠危険

- 荷物はロープまたはベルトにて荷台に固定してください。守らなかった場合、本機の重心のバランスが変動し、荷物の落下や本機が転倒するおそれがあるため大変危険です。
- 荷物は高く積み上げないでください。重心位置が高くなることでバランスを保ちにくくなり、荷物の落下のおそれがあります。

⚠注意

- やむを得ず積荷を高く積み上げる場合は、荷崩れが発生しないよう低速で安全な運転を行なってください。

バランス良く積載し、安全で効率の良い作業を行なってください。



重要

- 積荷の重心が荷台中央部になるように積載してください。
- 荷物を積載して走行する際は、積載量によってサイドクラッチレバーおよびブレーキレバーの操作荷重が変わります。十分注意して運搬してください。

油圧操作

■リフトおよびダンプ操作

リフトおよびダンプ操作に関しては、26～28 ページの「油圧クラッチレバー」、「リフト・ダンプ切替レバー」、「油圧操作レバー」の項目を参照してください。

点検・整備

増し締め・・・作業前に各部位のボルト・ナットに緩みがないことを確認し、緩みがある場合は締め直してください。



警告

●給油および点検・整備の際は、周囲の安全を確認してください。

- ①本機は平坦で地盤が硬く、明るく広い場所に停める。
- ②エンジンを停止する。
- ③駐車ブレーキをかける。
- ④荷台をリフトアップまたはダンプアップさせた際は、本機装備品のシリンダストッパをセットするか、または十分に強度のある木材で落下防止を施す。

注：安全確認を行なわなかった場合、予期せぬ事故に繋がるおそれがあります。

〈定期点検整備箇所一覧表〉

事故の未然防止や本機を適正な状態で使用するために、必ず点検・整備を行なってください。
○点検・調整 ◎給油 ●交換

点 検 箇 所	確 認 内 容	点 検 時 期 (目 安)				参 照 ペ ー ジ	
		始 業 前	50h 毎	100h 毎	200h 毎		
本 体 ・ 走 行 部	ギヤボックス	油 量		◎		●	42・43
	ブレーキシュー	摩 耗		○		●	50
	V ベ ル ト	伸 び ・ 亀 裂	○				48
	サイドクラッチレバー	利き (調整)	○				48～51
	ブレーキレバー	利き (調整)	○				48～51
	ク ロ ー ラ	伸 び ・ 亀 裂	○				54
	転輪 (各ローラ)	グリス量			◎		41
	各 支 点 部	油 ・ グリス量	○				—
	操作系ロッド支点部	油 ・ グリス量	○				—
	バ ッ テ リ	液 量	○				46・47
油 圧 部	油 圧 ポ ン プ	油 量 ・ 油 質			◎	●	43
	油 圧 ホ ー ス	亀 裂 ・ 油 漏 れ	○				—
	油 圧 シ リ ン ダ	油 漏 れ	○				—
	摺 動 部	グリス量	○				—
エ ン ジ ン 部	エンジンオイル	油 量 ・ 汚 れ	○		●		44・45
	エアクリーナ	汚 れ		○		●	—
	点 火 プ ラ グ	汚 れ ・ 摩 耗		○			—
	燃 料 フ ィ ル タ	水 だ ま り ・ 目 詰 ま り			○		44

エンジン関係の詳細に関しては、「エンジン取扱説明書」を参照してください。

重要

- 湿田で使用後は、必ず転輪のグリスアップを行なってください。
- 年に1回度は、販売店にて点検・整備を受けてください。

■給油

〈給油箇所一覧表〉

給油箇所		油の種類	容量	参照ページ
本体 ・ 走行部	ギヤボックス	ギヤオイル ・ SAE 規格 80W-90 ・ API 規格 GL-5	4.4L	42・43
	トラックローラ	リチウム系一般グリス	適量	41・42
	アイドルローラ			
	アップローラ			
	イコライザ支点	ギヤオイルまたはリチウム系一般グリス	適量	—
注油指示部				
エンジン	エンジン	ガソリンエンジンオイル ・ SAE 規格 10W-30 ・ API 規格 SF 級以上	1.1L	44・45
	燃料	自動車用無鉛ガソリン（レギュラー）	6.0L	—
油圧部	油圧ポンプ	油圧オイル ・ ISO 規格 VG56	2.0L	43
	各支点・摺動部	ギヤオイルまたはリチウム系一般グリス	適量	—

重要

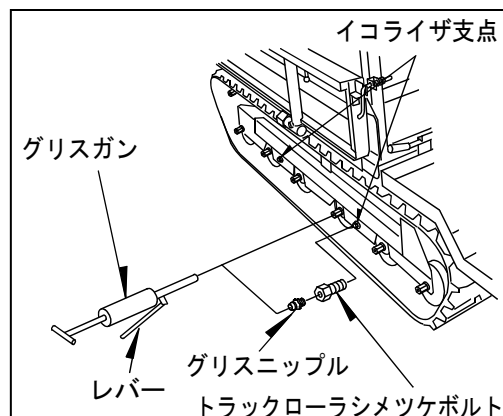
- 機械にとって潤滑油はとても大切なものです。給油をおろそかにすると機械が円滑に作動しなくなります。また、故障の原因となり寿命が短くします。常に点検・整備を行ない、早めの給油および交換を行なってください。
- 寒冷地で本機を使用する場合は、該当する気温に適した油種を使用してください。
- 給油中は、異物や水などが混入しないよう十分注意してください

1. 転輪の給脂箇所

- トラックローラ、アイドルローラ、アップローラ、イコライザ支点

市販のグリスガンにて各転輪中央部のグリスニップルからグリスを注入してください。

イコライザ支点の給脂は、同梱のトラックローラシメツケボルト、グリスニップルに組み換えてから行ってください



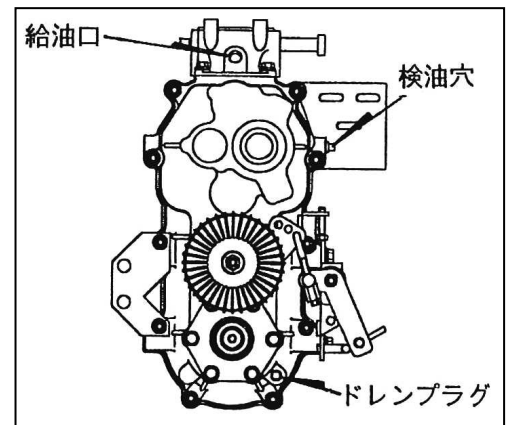
重要

- 出荷時点で、各転輪にはグリスを充填しています。グリスを注入し過ぎた場合、転輪が回転しなくなるおそれがあります。転輪内部からグリスが溢れ出した場合は、すぐに注入を停止してください。
- グリス注入量の目安は、手動式グリスガンで1～2回のレバー操作で構いません。この時、グリスガンからグリスが出ていることを確認しておいてください。また、エアー式グリスガンは、グリスが入り過ぎるおそれがあるため使用しないでください。

2. ギヤボックスオイルの給油・交換

● 給油

- (1) 機体を水平にします。
- (2) ギヤボックス側面にある検油ボルトを外します。
- (3) 給油口のキャップを外し、検油穴からオイルが流れ出るまで給油します。
- (4) 給油終了後、検油ボルトを元の位置に取り付け、給油口のキャップを取り付けます。
- (5) 流れ出たオイルは、きれいに拭き取ります。



● 交換

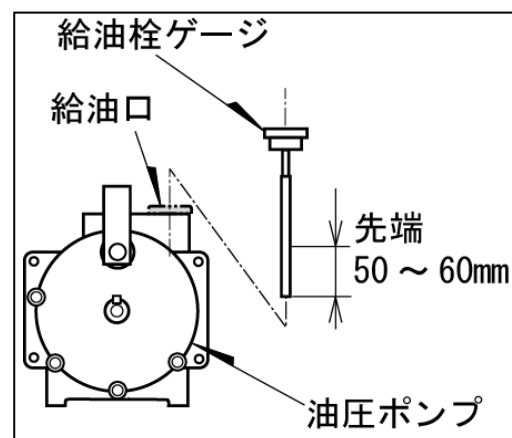
- (1) 機体を水平にします。
- (2) 廃油用の受け皿を用意し、ギヤボックスの下にセットします。
- (3) 給油口のキャップとギヤボックス下部のドレンプラグを外し、オイルを廃油用の受け皿に排出します。
- (4) オイル排出後、ドレンプラグにシールテープを巻き直し、元の位置に取り付けます。
- (5) 検油ボルトを外し、検油穴からオイルが流れ出るまで給油します。
- (6) 給油終了後、検油ボルトを元の位置に取り付けます。また、給油口のキャップも取り付けます。
- (7) オイルは、きれいに拭き取ります。

重要

- 廃油は受け皿または廃液缶などに入れ、適切に処理してください。また、流出した場合は、すみやかに拭き取ってください。放置すると汚染の原因になります。
- 排出したオイル内に鉄粉の混入を発見した場合、ギヤボックス内部が破損しているおそれがあります。その際は、販売店にお問い合わせください。
- ギヤボックスのオイルは、気温や走行条件により給油口およびゴムキャップのエア抜き穴から漏れ出ることがあります。頻繁に点検してください。

3. 油圧オイルの給油

- (1) 機体を水平にし、荷台を最低位置まで下降させます。
- (2) エンジンカバーを開け、油圧ポンプの給油栓ゲージを外し、先端をきれいに拭き取った後、改めて締め込んでから再び外し、ゲージの先端から50～60mmの位置までオイルが入っていることを確認します。
- (3) オイル量が減少している場合は、給油口より給油します。
- (4) 給油終了後、給油栓ゲージを元の位置に取り付け、エンジンカバーを閉じます。



※オイルを交換する際は、油圧ポンプ下部のドレンプラグからオイルを排出します。

重要

- 荷台をリフト上昇またはダンプ上昇させた状態と下降させた状態では、シリンダおよび油圧ポンプ内のオイル量が異なります。オイル量の確認は、必ず荷台を最低位置まで下降させた状態で行なってください。
- オイル量が多い場合、ブリーザキャップのエア抜き穴よりオイルが漏れ出ることがあります。
- 早期のオイル量の減少は異常です。販売店にて点検・整備を受けてください。

■点検と清掃

危険

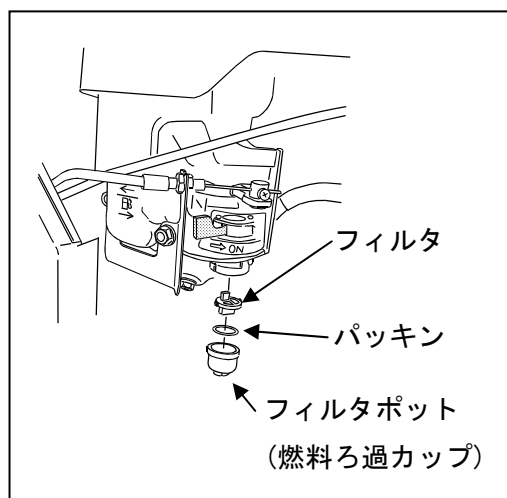
- 火気厳禁。
- 給油の際は、必ずエンジンを停止させてください。また、高温部が冷めてから給油してください。
- 燃料を給油する際は、くわえタバコや周囲で火気を扱うことは厳禁です。引火爆発および火災の原因になります。また、身体に帯電した静電気を除電してから給油してください。

(1) 燃料……自動車用無鉛ガソリン

- 燃料タンク内に異物や水などが混入しないよう十分注意してください。
- 燃料キャップが確実に締まっていることを確認してください。

(2) フィルタポット(燃料ろ過カップ)の清掃と交換

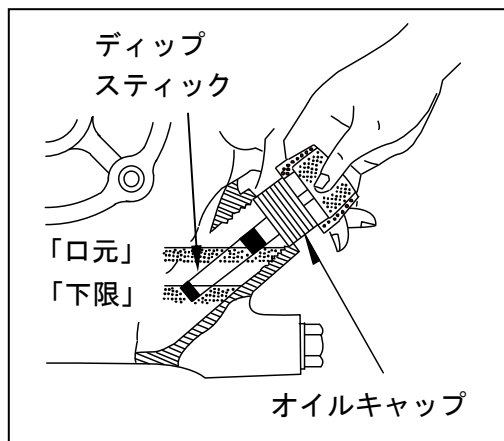
- 燃料中に含まれる異物や水などがフィルタポット内に沈殿していないか点検します。
- ①燃料コックレバーを「OFF」位置にします。
 - ②カップ、パッキン、フィルタを取り外し、引火性の低いオイルクリーナーで洗浄した後、エアブローにて乾燥させます。
 - ③乾燥後、フィルタ、パッキン、カップを確実に取り付けます。



※フィルタポットの清掃および交換は、別冊で添付しております「エンジン取扱説明書」をご確認ください。

(3) エンジンオイル

- オイル注入口の口元までオイルが満たされているか点検します。
- ①機体を水平にします。
 - ②オイルキャップを外し、注入口の口元までオイルが満たされているか確認します。この時、オイルの汚れ、変色がある場合は交換してください。



③オイル量がディップスティックの下限マーク付近、またはそれよりも減少している場合は、口元まで給油します。

④給油後、オイルキャップを元の位置に取り付けます。

重要 ●エンジンオイルが「下限」以下の状態で、本機を使用しないでください。

※オイル交換、エアクリーナの清掃などエンジンの保守点検に関しては、別冊で添付しております「エンジン取扱説明書」をご確認ください。

電気系統の点検と清掃

■電気配線の点検と清掃

注意

- 配線の端子や接続部の緩みおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）、漏電の原因となり、更には火災事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。損傷している配線は、早めに修理、交換を行なってください。
- バッテリー、電気配線およびマフラーやエンジン周辺部に付着した可燃物、ゴミなどは取り除いてください。守らなかった場合、火災の原因となります。
- 年に1回度は、販売店にて点検・整備を受けてください。

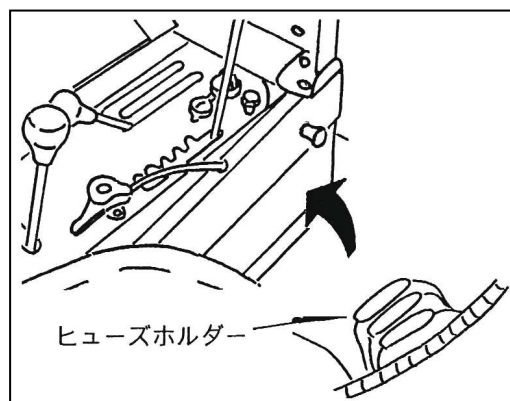
下記内容について、定期点検を実施してください。

- (1) 配線の損傷がないこと。配線被覆が破れている場合は、絶縁テープを巻いて補修します。
- (2) 配線のクランプに緩みがないこと。配線がクランプから外れている場合は、所定のクランプにて配線を結束します。
- (3) ターミナル、カプラの接続部の緩みがないことを確認します。
- (4) 各スイッチが作動することを確認します。

重要 ●バッテリーおよびエンジン周辺の電気配線、電装部品などに高圧水をかけないでください。電気部品の故障の原因となります。

■ヒューズの取り扱い

ヒューズは、ヒューズホルダーの中に入っています。ヒューズが切れた際は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。大容量のヒューズを取り付けた場合、焼損の原因となります。



重要

- ヒューズが切れた場合、切れた原因を調査し、対処を行なってください。対処後、同じ容量のヒューズと交換してください。絶対に針金で代用しなでください。

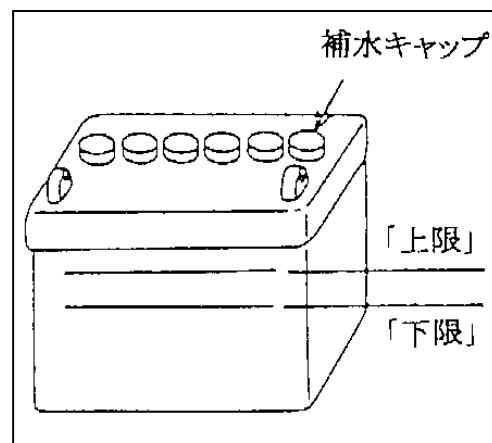
■バッテリーの点検と取り扱い

警告

- ショートやスパークさせたり、タバコおよびライターなどの火気を近づけないでください。また、身体に帯電した静電気を除電してください。
- 充電は通気性の良い場所にて補水キャップを外してから行なってください。守らなかった場合、引火爆発するおそれがあるため大変危険です。
- バッテリーの液量が、バッテリーの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下の状態で使用および充電され続けた場合、バッテリー容器内の各部位の劣化が促進され、寿命を縮めるほか、破裂、爆発の原因となるため大変危険です。
- バッテリー液（電解液）は希硫酸（劇物）であり、大変危険です。
 - ・硫酸ミストまたは蒸気を吸入した場合、ただちに新鮮な空気が得られる場所へ移動してください。
 - ・体や衣服に付着した場合、ただちに多量の水で洗い続けてください。
 - ・眼に入った場合、ただちに多量の水で15分以上洗い続けてください。なお、応急処置後は医師の診察を受けてください。
- ブースケーブル使用時は、ブースケーブル付属の取扱説明書をよく読んで安全に取り扱ってください。

(1) バッテリーの液量点検

- バッテリーを水平にし、バッテリー液が液面レベルの上限線から下限線の間にあることを確認してください。
- バッテリー液が不足している場合は、補水キャップを取り外し、6箇所セル毎にそれぞれ蒸留水を補充してください。この時、液面レベルの上限以上に補充しないでください。



(2) バッテリーの取り扱い

- 気温が低下することでバッテリーの性能も低下します。特に、冬季はバッテリーの管理を行なってください。
- バッテリーは使用していなくても自己放電します。定期的に充電を行なってください。
 - ・ 充電の目安
夏季・・・1ヶ月毎
冬季・・・2ヵ月毎
- 本機を長期格納する際は、バッテリーを取り外してください。取り外したバッテリーは、日光の当たらない乾燥した場所にて保管してください。やむを得ず本機に取り付けた状態でバッテリーを保管する場合は、必ずマイナス（ \ominus ）端子を外してください。
- 新品のバッテリーと交換する際は、必ず指定型式のバッテリーを使用してください（本書 69 ページ参照）。

重要

- バッテリーを充電する際は、必ず本機から取り外してください。電装品および配線の損傷に繋がるおそれがあります。
- バッテリー端子を取り外す際は、必ずマイナス端子を先に外してください。バッテリー端子を取り付ける際は、必ずプラス端子を先に取り付けてください。また、プラス端子とマイナス端子を間違えないように接続してください。
- バッテリーの急速充電は、できるだけ控えてください。急速充電は、短時間に大電流で行なうため、バッテリーの寿命を短くするおそれがあります。
- バッテリーの充電は、使用する充電器の取扱説明書の指示に従って行ってください（バッテリーの \oplus を充電器の \oplus 側に \ominus を充電器の \ominus 側に接続してください）。
- バッテリーを交換した際、不要になったバッテリーの廃棄は「リサイクル協力店」および廃棄物処理業者に依頼されるか、または販売店にお問い合わせください。

各部の調整



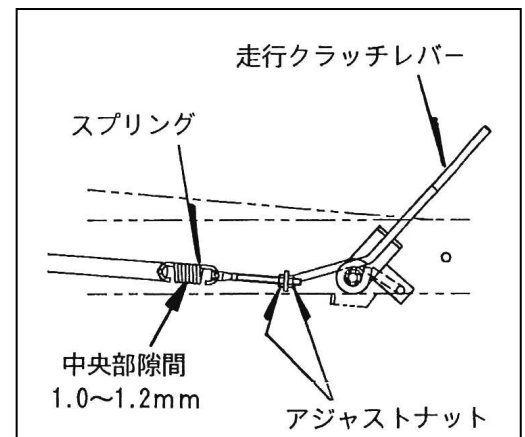
警告

- 各部の点検・調整を行なう際は、必ずエンジンを停止させ、平坦で地盤が硬く、明るく広い場所にて行なってください。

■走行クラッチレバーの調整

走行クラッチレバーを「低」または「高」位置にした際、ベルトが滑り動力の伝動が不十分な時は、下記の要領にて調整してください。

走行クラッチレバーを「低」および「高」位置の各状態の時、スプリング中央部の隙間が1.0～1.2mmになるようアジャストナットにてそれぞれ調整してください。調整後は、アジャストナットにて固定してください。



重要

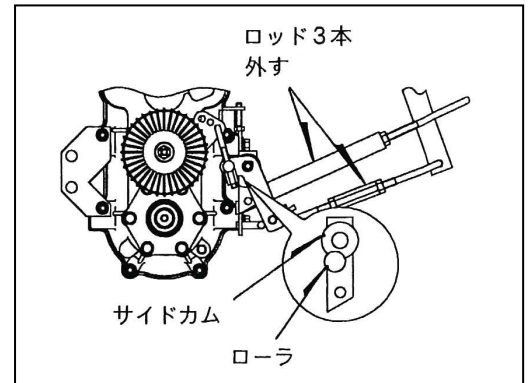
- 走行クラッチレバーの調整が適正でない場合、走行クラッチレバーを「低」または「高」位置にした際、ベルトが滑り動力の伝動が不十分で走行できなくなったり、坂道で暴走するおそれがあります。作業前には、必ずベルトの点検を行なってください。

■サイドクラッチレバーおよびブレーキレバーの調整

サイドクラッチレバーのあそび（ガタ）や作動範囲が広くなることで、サイドクラッチレバーを引いた時の旋回の反応が遅くなった場合、また、ブレーキレバーの作動範囲が広くなることで、ブレーキおよび駐車ブレーキの効力が低下した場合は、以下の要領および手順にて調整してください。

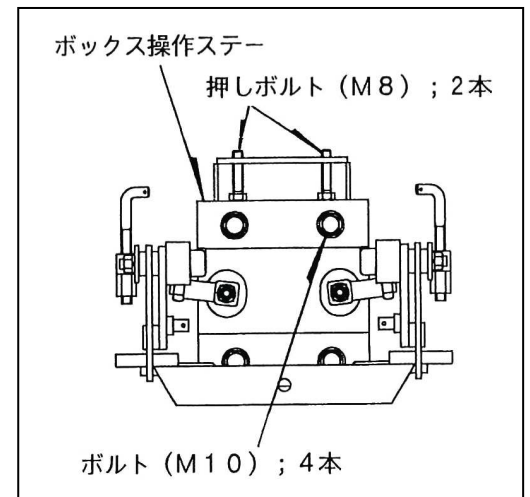
1. 確認

- (1) ギヤボックス内のギヤ同士を噛みあった状態にするため、サイドクラッチレバーは操作せず、2～3m程度前進または後進して停止します。
- (2) ギヤボックス操作部を点検するため、サイドクラッチレバーおよびブレーキレバーからギヤボックスに連結しているロッド3本を外します。
- (3) サイドカムが作動していない状態（サイドクラッチレバーを操作していない状態）で、左右のサイドカムとローラとの間の隙間の有無を確認します（サイドカムを手で前後に動かし、隙間の有無を確認）。
- (4) サイドカムとローラとの間に隙間（ガタ）が無い場合は、「3. サイドクラッチブレーキの調整」へ、隙間（ガタ）が有る場合は、「2. ギヤボックス操作部の調整」へ移行します。



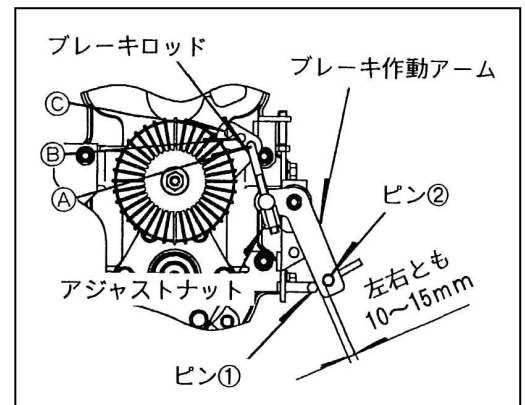
2. ギヤボックス操作部の調整

- (1) ボックス操作ステーを固定している4本のボルト（M10）を緩め、ボックス操作ステーが少し動かせる程度にします。
- (2) ボックス操作ステーの位置決め用の2本の押しボルト（M8）を締める側に回します（ボルトがボックス操作ステーから離れる方向）。
- (3) 左右のサイドカムとローラが均等に接触（隙間が無くなる）するまでボックス操作ステーを下方に下げます（プラスチックハンマーでボックス操作ステー上部を軽く叩きながら下げる作業が容易です）。
- (4) ボックス操作ステーの位置決め用の2本の押しボルト（M8）をボックス操作ステーに軽く接触するまで緩める側に回します。
- (5) ボックス操作ステーを固定している4本のボルト（M10）を締め付けます。
 [締付トルク：51.0～65.7N・m(520～670kgf・cm)] …厳守のこと。



3. サイドクラッチブレーキの調整

- (1) ブレーキ作動アームを約 5 kg の力で引いた時、
 図中①と②のピンの間隔が左右とも 10～15 mm
 になるようブレーキロッドのアジャストナットに
 て調整します。
- (2) 「1. 確認」の項目(2)で外したサイドクラッチ
 レバーおよびブレーキレバーからギヤボックスに
 連結していたロッド 3 本を元の位置に取り付けま
 す。

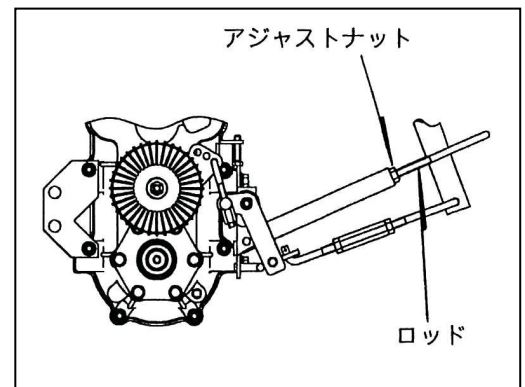


重要

- アジャストナットを最大まで締め込んでも調整ができなくなった場合は、ブレーキロッドの取り付け位置を図中の (A) 位置から (B) 位置へ、または (B) 位置から (C) 位置へと順番に変更してください。アジャストナットでの調整範囲が広がります。
- ブレーキロッドを (C) 位置に取り付けてもアジャストナットによる調整ができない場合は、ブレーキシューを交換してください。

4. サイドクラッチレバーのあそび（ガタ）調整

- (1) サイドクラッチレバーを軽く動かし、先端部のあそび（ガタ）が 20 mm 以上ある場合は、サイドクラッチレバーのあそび（ガタ）が無くなる程度までアジャストナットにてロッドの張り調整を行います（左右実施のこと）。
- (2) 調整後は、アジャストナットにて固定します。

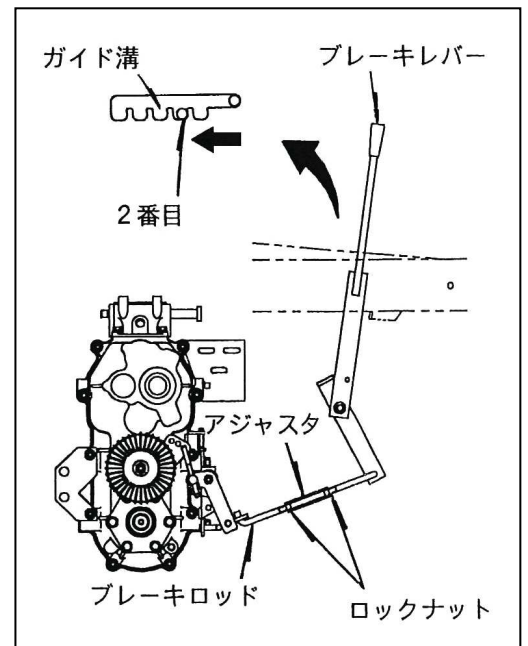


重要

- サイドクラッチレバーを操作していない状態で、サイドカムが作動しないようロッドの張り過ぎ（アジャストナットの調整）に注意してください

5. ブレーキレバーの調整

- (1) 駐車ブレーキをかけていない状態で、ブレーキロッドのあそび（ガタ）が無くなる程度までアジャスタにて調整します。
調整が適正である場合、レバーガイド溝の2番目の位置で駐車ブレーキが効いています。
- (2) 調整後は、両側のロックナットにて固定します。



■油圧クラッチレバーの調整

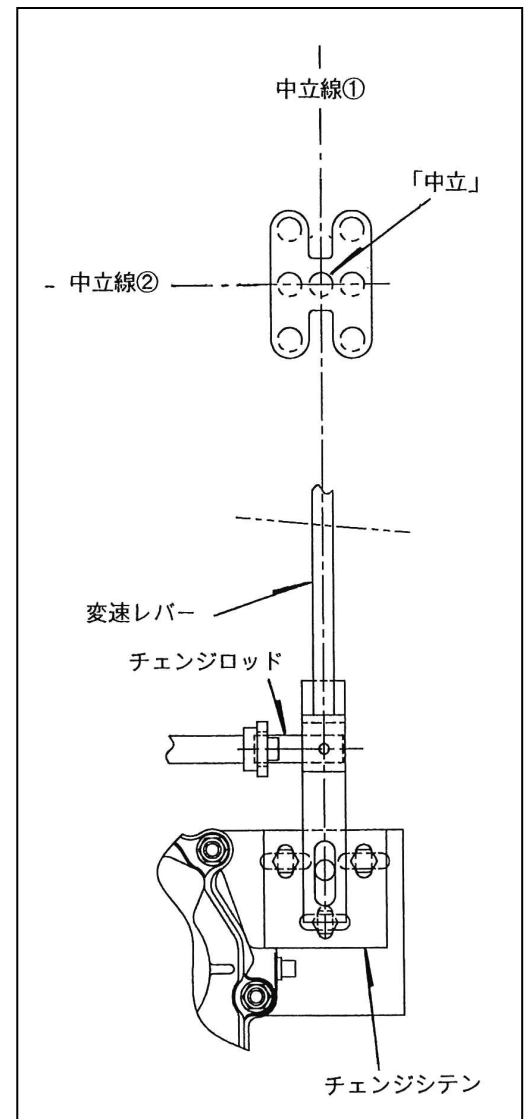
油圧操作レバーを操作した際、ベルトが滑り動力の伝動が不十分で荷台の昇降動作の反応が遅い時は、油圧クラッチレバーを現状のガイド溝から1段ずつかけ替えてベルトの張り増しを行なってください。



■変速レバーの位置調整

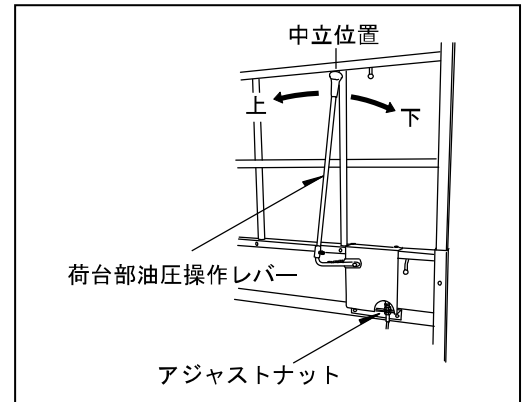
出荷時点で変速レバーの位置は調整されていますが、累積使用時間が増加することで、各部のへたりやゆがみによりガイド溝に対して位置ズレが発生することがあります。このまま使用を続けた場合、ギヤ抜けの原因になります。位置ズレが発生した際は、以下の要領にて調整してください。

- (1) 座席の下のステップカバーを取り外します。
- (2) <左右方向の位置調整>
 変速レバーを「中立」位置にします。
 チェンジロッドを固定している2本のボルト(M8)を緩め、変速レバーを軽く左右に動かした時、中立線①を中心としたときの振れ幅が左右均等になるように調整し、ボルトを固定します。
- (3) <前後方向の位置調整>
 変速レバーを「中立」位置にします。
 チェンジシテンを固定している3本のボルト(M8)を緩め、チェンジシテンを前後に動かした時、中立線②を中心としたときの振れ幅が前後均等になるように調整し、ボルトを固定します。
- (4) 変速レバーが各変速位置に作動することを確認します。
- (5) 元の位置にステップカバーを取り付けます。



■荷台部油圧操作レバーの「中立」位置の調整

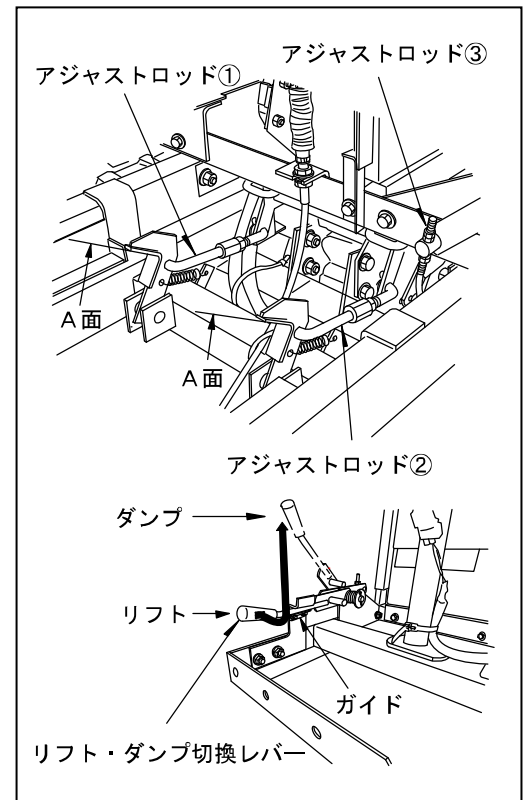
リフトワイヤーの伸びにより、荷台部油圧操作レバーの中立位置のズレが発生した場合、中立位置から上下作動方向に対するレバーの作動範囲が均等になるようアジャストナットにて調整します。



■リフト・ダンプ切替レバーの調整

累積使用時間が増加することで、各部のゆがみや摩擦によりレバーの切り替えができなくなった場合は、以下の要領にて調整してください。

- (1) 荷台をリフトアップさせます。この時、必ず荷台落下防止を施します。
- (2) 切替レバーをリフト側（下方へ押し下げた状態）にしている時、左右のキリカエフックのA面が水平になうようアジャストロッド①、②にて調整します。調整後は、必ずロックナットにて固定します。
- (3) 切替レバーをリフト側にしている時、ガイド位置に対して適切に固定できるようアジャストロッド③にて調整します。調整後は、必ずロックナットにて固定します。
- (4) 荷台落下防止策を解除し、荷台を降下させます。

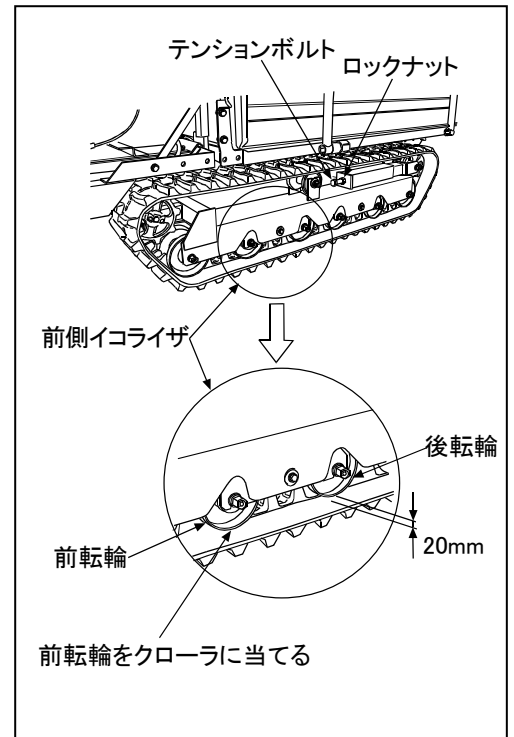


■クローラの張り調整

クローラが初期伸びや摩耗によってたるみが発生した際は、クローラの張り調整を行なってください（左右実施のこと）。

- (1) クローラを地面から離します（機体を持ち上げる）。
- (2) 本機前方側イコライザの前転輪をクローラの内面に接触させた際、後転輪とクローラの内面との距離が $20 \pm 1 \text{ mm}$ になるようにテンションボルトにて調整します。
- (3) 調整後は、ロックナットにて固定します。

[締付トルク： $132.3 \sim 186.2 \text{ N}\cdot\text{m}$
($1349 \sim 1898 \text{ kgf}\cdot\text{cm}$)]



手入れと格納



警告

- 作業終了後、本機にシートカバーを被せる場合は、高温部が完全に冷めた状態にて行なってください。高温状態でシートカバーを被せた場合、火災の原因となります。

■日常の格納

日常の格納および短期間の格納は、以下の要領で行なってください。

- (1) 本機の使用後は清掃してください。特に埃や泥が付着した際は、洗車をしてください。
- (2) 燃料タンク内の錆防止のため、燃料はタンクの半分以上給油しておいてください。
- (3) 荷台は必ず下降状態にしてください（リフトアップまたはダンプアップを保持しないでください）。
- (4) できるだけ屋内に格納してください。
- (5) 走行クラッチレバーおよび油圧クラッチレバーを「切」位置にしてください。
- (6) 必ず駐車ブレーキをかけてください。
- (7) 厳寒時はバッテリーを取り外し、暖かい屋内に保管に保管してください。エンジンの始動性が向上します。

重要

- 洗車の際、エンジン、樹脂部品、電装品およびマーク貼付部には高圧水をかけないでください。高圧水によって本機の故障やマークの剥がれ、部品の変形に繋がります。
- キースイッチからキーを抜き、保護キャップを被せてください。保護キャップを被せなかった場合、漏電の原因となります。

■長期格納

長期間の格納は本機を丁寧に清掃し、以下の要領で行なってください。

- (1) 本機は丁寧に清掃してください。
- (2) 不具合箇所を整備してください。
- (3) エンジンオイルを新しいオイルに交換し、エンジンを始動させ5分程度アイドリング状態（低回転）で保持してください（オイルが循環するまで待機）。
- (4) 注油指示部、各支点部および摺動部は必ず給脂してください。
- (5) 各部のボルト・ナットの緩みを点検し、緩みがある場合は締め直してください。

- (6) 荷台は必ず下降状態にしてください(リフトアップまたはダンプアップを保持しないでください)。
- (7) 周辺に火気が無い場所に格納してください。また、雨風にさらされない場所での格納や本機にシートカバーを被せて保管してください。
- (8) 走行クラッチレバーおよび油圧クラッチレバーを「切」位置にしてください。また、駐車ブレーキはかけない状態で、輪留め(車輪止め)をしてください。
- (9) 付着している燃料は、よく拭き取ってください。また、燃料タンクおよび気化器(キャブレター)内の燃料は取り除いてください。
※「エンジン取扱説明書」参照。
- (10) バッテリーを本機から取り外してください。取り外したバッテリーは、液面を点検し、補充を行なった後、日光の当たらない乾燥した場所にて保管してください。やむを得ず本機に取り付けた状態でバッテリーを保管する場合は、必ずマイナス端子を外してください。

重要

- バッテリーを本機から取り外さない場合は、必ずバッテリーのマイナス端子を外してください。ネズミがケーブルをかじることでショートすることがあり、発火して火災の原因となることを防ぎます。
- キースイッチのキーを必ず抜き、保護キャップを被せてください。

■ 長期格納後の使用

長期格納後の使用は、以下の要領で行なってください。

- 始業点検を必ず行ない、本機を適正な状態にしてください。
- エンジンの寿命、性能を保つため、エンジン始動後はアイドル状態(低回転)で5分程度の暖機運転を行なってください。

不調時の対応のしかた

■エンジン関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
キースイッチを回してもセルモータが回らない	●バッテリーの過放電	●バッテリーの充電または交換	46・47
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ヒューズ切れ	●原因の対処後、ヒューズ交換	46
	●キースイッチの故障	●キースイッチの交換	※
	●セルモータの故障	●修理または交換	※
	●リミットスイッチの作動不良または故障	●リミットスイッチの位置調整または交換	※
	●走行クラッチレバーが「入」位置になっている	●走行クラッチレバーを「切」位置にする	25
セルモータの回転があがらない	●バッテリーの過放電	●バッテリーの充電または交換	46・47
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
エンジンがかからない(セルモータは回る)	●混合気が薄い (空気の密度が濃い・・・低温時)	●チョークレバーを引く (空気の量を抑える)	23・32
	●燃料が供給されていない	●燃料コックを開ける	44
	●燃料フィルタの詰まり	●フィルタの掃除または交換	
	●点火プラグの汚れまたは電極の摩耗	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●気化器の詰まり	●気化器の清掃または交換	※
	●エンジン本体の不具合	●エンジンの修理または交換	※
	●緊急停止スイッチが「停止」位置になっている	●緊急停止スイッチを「運転」位置にする	22・32
	●変速レバーが前進2速の位置にあり、シートに座っていない	●変速レバーを前進2速以外の位置にする、またはシートに座る	21・32
エンジン回転が不安定	●燃料フィルタの詰まり	●フィルタの掃除または交換	44
	●燃料供給系統からの燃料漏れ またはエアーの混入	●クランプ部の再締め付け	※
		●修理または交換	
	●点火プラグの汚れまたは電極の摩耗	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
●気化器の詰まり	●気化器の清掃または交換	※	

不調時の対応のしかた

故障状況	原因	処置	参照ページ
エンジンを低回転にすると停止する	●点火プラグの汚れまたは電極の摩耗	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●気化器の詰まりおよび調整不良	●気化器の清掃または交換	※
	●スロットル位置のズレ	●スロットルの調整	※
エンジンが突然停止した	●燃料不足	●燃料の給油	41・44 エンジン取説
	●エンジンオイル量の不足または品質不良（粘度が高い）	●エンジンオイルの給油または交換	41・44・45 エンジン取説
	●エンジンオイル量の不足または潤滑不良によるエンジンの焼き付き	●エンジンの修理または交換	※
	●プラグキャップの緩み	●プラグキャップを適切に取り付ける	エンジン取説
	●変速レバーが前進2速の位置にあり、シートから退座した	●変速レバーを前進2速以外の位置にする、またはシートに座る	21
排気部から異常な煙が出る	●エアクリーナの詰まり	●エレメントの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイル量が多い	●適正量に調整する	エンジン取説
	●気化器の調整不良	●気化器の調整	※
	●燃料が劣化している	●新しい燃料と入れ替える	—
エンジン出力不足	●積載量が多い	●積載量を減らす	38・39
	●気化器の調整不良	●気化器の調整	※
	●点火プラグの汚れまたは電極の摩耗	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイル量が不適正	●適正量に調整する	44・45 エンジン取説
	●冷却空の気取入口やシリンダフィン部にゴミが付着	●清掃する	エンジン取説
	●エアクリーナの詰まり	●エレメントの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイルの汚れ	●エンジンオイルの交換	エンジン取説

不調時の対応のしかた

故障状況	原因	処置	参照ページ
エンジン出力不足	●燃料キャップのエア抜き部の詰まり	●キャップを取り外し、清掃または交換	—
	●エンジン本体の不具合	●エンジンの修理または交換	※
	●エンジンの過熱	●小休止	—
		●吸気部の清掃	エンジン取説

■操作関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
走行クラッチレバーを「切」位置にしても本機が停止しない	●走行ベルトのつき回り	●走行クラッチレバーの調整	48
		●ベルトストッパの調整	※
走行クラッチレバーを「低」または「高」にしても発進しない	●走行ベルトのスリップ	●走行クラッチレバーの調整	48
	●走行ベルトの摩耗	●走行ベルトの交換	※
	●駐車ブレーキがかかっている	●ブレーキの解除または調整	24・48～51
変速レバーが各変速位置に入らない	●変速レバーの位置ズレ	●変速レバーの調整	52
	●変速レバーの変形	●変速レバーの交換	※

■油圧関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
油圧操作レバーを操作しても荷台が下降または上昇しない	●油圧ポンプ駆動ベルトのスリップ	●油圧クラッチレバーの調整	51
		●油圧ポンプ駆動用ベルトの交換	※
	●油圧オイル量の不足または品質不良	●油圧オイルの給油または交換	41・43
	●油圧ホースの亀裂によるオイル漏れ	●油圧ホースの交換	※
	●ホース接続部の緩みによるオイル漏れ	●増し締め	—
	●油圧シリンダのエルボ取り付け部からのオイル漏れ	●シールテープの巻き直し	※

不調時の対応のしかた

■油圧関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
油圧操作レバーを操作しても荷台が下降または上昇しない	●油圧シリンダ内にエアの混入	●エア抜き	※
	●油圧シリンダの内部リーク	●油圧シリンダの交換	※
	●積載量が多い	●積載量を減らす	38・39

■電装関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
バッテリーが充電されない	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ヒューズ切れ	●原因の対処後、ヒューズ交換	46
	●レギュレータの不良	●レギュレータの交換	※
	●エンジンの発電不良	●エンジンの修理または交換	※
	●バッテリーの機能不良	●バッテリー液の補充または バッテリーの交換 ●接続部の緩みまたは腐食部の 是正処置	45~47
ランプが暗い	●バッテリーの過放電	●バッテリーの充電または交換	46・47
	●エンジンの発電不良	●エンジンの修理または交換	※
	●配線の接触不良	●アース線およびバッテリー端子部の 増し締めならびに錆、異物の 除去	45
ランプが点灯しない	●電球の断線	●電球の交換	—
	●ヒューズ切れ	●原因の対処後、ヒューズ交換	46
	●配線の接触不良	●アース線およびバッテリー端子部の 接続確認	45

重要

●参照ページ欄に“※”マークを記している項目に関しては、販売店にお問い合わせください。

農作業を安全におこなうために

農林水産省より、農作業を安全に行なううえで農業機械を使用する際の注意事項が「農業安全基準」として定められています。以下は、本機を使用される方のために特に重要な項目を「農業安全基準」より抜粋しております。よくお読みいただき、事故のない快適な農作業のためにお役立てください。

一般共通事項

(1) 適用範囲

一般共通事項は、農業機械を使用して行う作業に従事する者が農作業の安全を確保するため注意すべき事項を示すものである。

(2) 就業条件

①安全作業の心得

農業機械を使用して行う作業（以下、「機械作業」という）に従事する者は機械の操作の熟練に努め、自己の安全を図ると共に、補助作業者及び他人に危害を及ぼさないように、機械を正しく運転することに努めること。

②就業者の条件

次に該当する者は、危険を伴う機械作業に従事しないこと。

- 精神病患者
- 酒気をおびた者
- 若年者
- 未熟練者
- 過労・病気・薬物の影響その他の理由により正常な運転操作ができない者

激しい作業が続く場合には、特に健康に留意し、適当な休憩と睡眠をとること。

妊娠中の者は、振動を伴う機械作業に従事しないこと。

③特殊温湿度環境下の安全

暑熱、寒冷及び高湿の環境における作業に際しては、安全を確保するため作業時間及び方法等を十分に検討すること。

(3) 子供に対する安全配慮

機械には、子供を同乗させないこと。また、機械には子供を近寄らせないように注意すること。

(4) 安全のための機械管理

① 日常の点検整備

農業機械は、使用の前後に日常の点検整備を行い、常に機械を安全な状態に保つこと。

② 防護装置の点検

- 機械作業に従事する者は、機械の操縦装置、制動装置、防護装置等危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が発揮できるようにしておくこと。
- 機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備または修理等のために取り外した場合は、必ず復元しておくこと。

③ 掲げ装置の落下の防止

作業機を上げた位置で点検調整等を行う場合には、ロック装置のあるものについて、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業機について落下防止の装置を講じること。

④ 整備工具の管理

点検整備に必要な工具類を適正に管理し、正しく利用すること。

(5) 火災・爆発の防止

① 引火・爆発物の取り扱い

引火または、爆発の恐れのある物質の貯蔵・補給等にあたってはその取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

② 火災予防の措置

火災の恐れがある作業場所には、消火器を備え、喫煙場所を決める等火災予防の措置を講じること。

(6) 服装および保護具の使用

次の農作業に際しては、適正な服装および保護具を用い、危険のないよう作業に従事すること。

① 頭の傷害防止の措置

機械からの墮落及び、落下物の恐れの大い場合、交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

② 巻き込まれによる傷害防止の措置

原動機若しくは動力伝動装置のある作業機または駆動する作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髮、手拭き等が巻き込まれないように適正な帽子および、作業衣等を使用すること。

③足の傷害及びスリップ防止の措置

機械作業において、作業機等の落下、土礫の飛散、踏付け、踏抜き及びスリップ等の恐れのある場合は、これらの事故を防止するために適正な履物を用いること。

④粉じん及び有害ガスに対する措置

多量の粉じん及び有害ガスが発生する作業にあつては、粉じん及び有害ガスによる危害防止のための適正な保護具を使用すること。

⑤農薬に対する措置

防除作業においては、呼吸器、目、皮膚等からの農薬による障害防止のために適正な保護具（保護衣を含む）を使用すること。

⑥激しい騒音に対する措置

激しい騒音の伴う作業にあつては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

⑦保護具の取り扱い

安全保護具を常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

移動機械共通事項

(1) 適用範囲

移動機械共通事項は、地上を移動しながら作業するトラクターその他の移動機械を使用して行う作業に従事する者が注意すべき事項を示すものである。

(2) 作業前の注意事項

①機械の点検整備

- 機械の点検整備を十分行い、その使用にあたっては、常に安全を確認すること。
- 機械の点検整備、手入れ及び作業機の装着等は、交通の危険がなく平坦である等、安全な場所であつ安全な方法で確実にを行うこと。特に、屋内で内焼機関を運転しながら点検整備等を行う場合は、換気に注意すること。

②防護装置の保全

- 機械に取り付けられた防護装置は、常に有効に作用する状態に保っておくこと。
- 機械の点検整備等のために防護装置を取り外した場合は、必ず復元し、その機能を十分に発揮できるようにしておくこと。

③悪条件下における作業

土地条件、気象条件等により機械作業に対する条件がよくない場合の作業については、実施の判断、作業方法および装備の選択等に注意すること。

(3) 作業中の注意事項

①乗車等の禁止

- 機械作業中は、作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

②前方及び後方の安全確認

運転中または作業中は、常に機械の周囲に注意し、安全を確認すること。特に、発進時に注意すること。

③転倒落下の防止

- 圃場への出入り、溝または畦畔の横断、軟弱地の通過等に際しては、機械の転倒を防ぐために、特に注意すること。
- 機械の積み降ろしに際しては、機械の転倒及び落下を防ぐための適切な措置を講じ、十分注意して行うこと。

④ 傷害の防止

- 動力伝動装置・回転部等の危険な部分には、作業中接触しないように注意すること。
- 刃または鋭利な突起を有する機械で作業を行う場合は、傷害防止のために特に注意すること。

⑤ 道路走行の安全

- 道路走行にあたっては、関係法規を守り、安全に運転すること。
- 道路走行にあたっては、他の自動車走行の妨げとならないように留意すること。
- 刃物または鋭利な突起物を有する機械を道路走行させる場合は、おおいをつけるかまたはこれを取り外す等、特に傷害防止のために注意すること。
- 悪上件の道路での高速運転の禁止
凹凸のはげしい道路、曲折のはげしい道路等においては、高速で運転しないこと。
- 坂道における安全確保
降坂時は、必ずエンジンプレーキを用いること。また、操向クラッチを使用しないこと。登坂時における発進では、前輪の浮上がりに注意すること。

⑥ 夜間における安全

夜間作業においては、とくに安全に注意し、的確な照明を行うこと。

夜間給油を行う場合は、裸火等を使用せず、安全な照明のもとで安全かつ確実に給油すること。

⑦ 作業中の点検調整等における安全措置

機械の点検調整は、必ず原動機を止め、安全な状態で行うこと。

休憩等で機械を離れる場合は、機械を安定した場所に置き、作業機を降ろし、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。やむを得ず傾斜地に機械を置く場合は、さらに車止めを施して、自然発車等の危険が生じないように注意すること。

(4) 終業後の注意事項

① 終業後の点検整備

作業終業後は、必ず次の作業のため機械の点検整備を行うこと。

② 作業機のとりはずし

作業機のとりはずしは、平坦な場所等の安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行うこと。とくに夜間の作業機のとりはずしは、安全で適切な照明を用い、安全に留意して行うこと。

③ 機械の安全管理

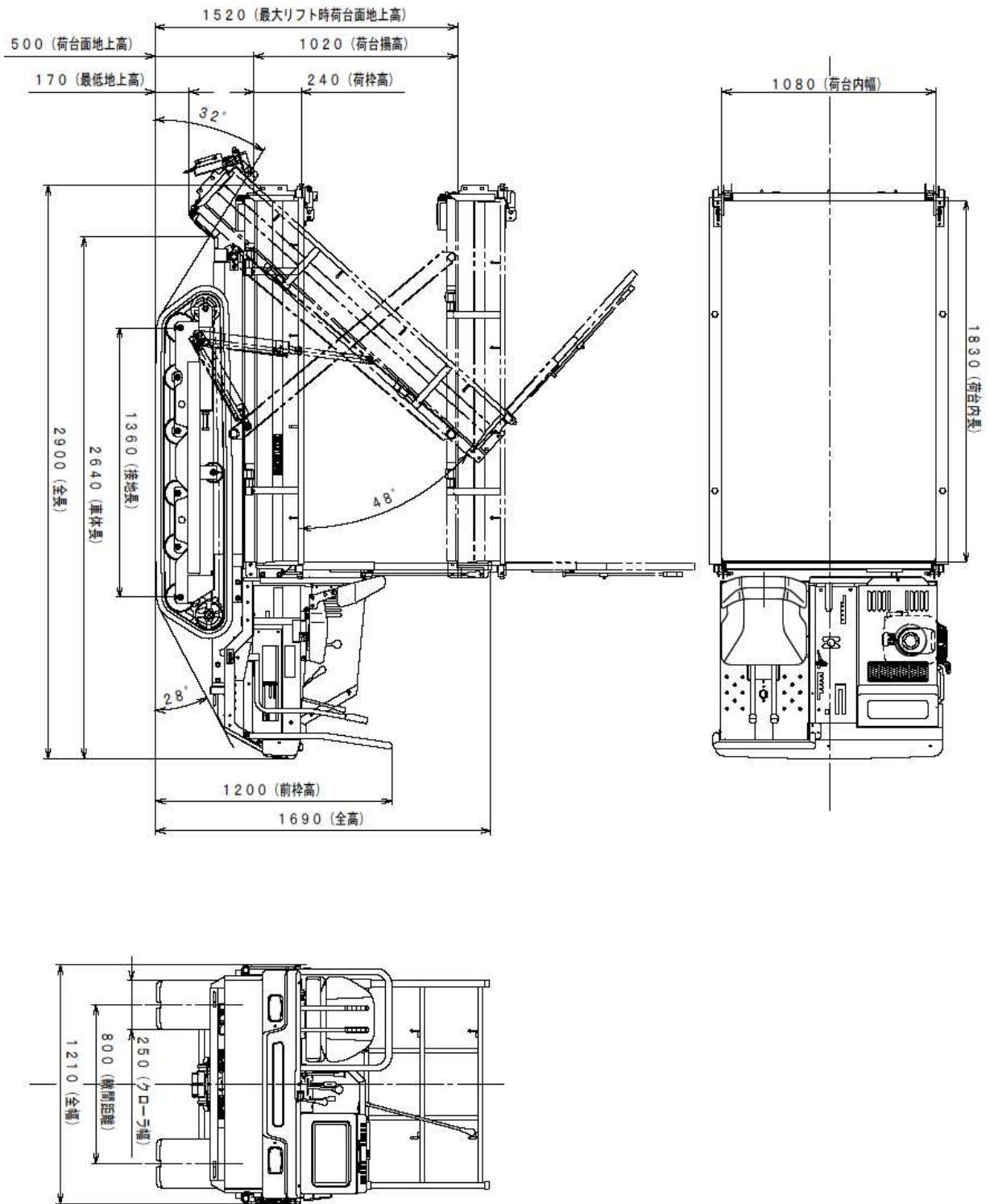
作業終了後は、作業機をはずし、または降ろし、機械を安定した場所に置き、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。また、危険と思われる機械は、格納庫に保管するかおおいをかけるなどして安全な状態におくこと。

サービス資料

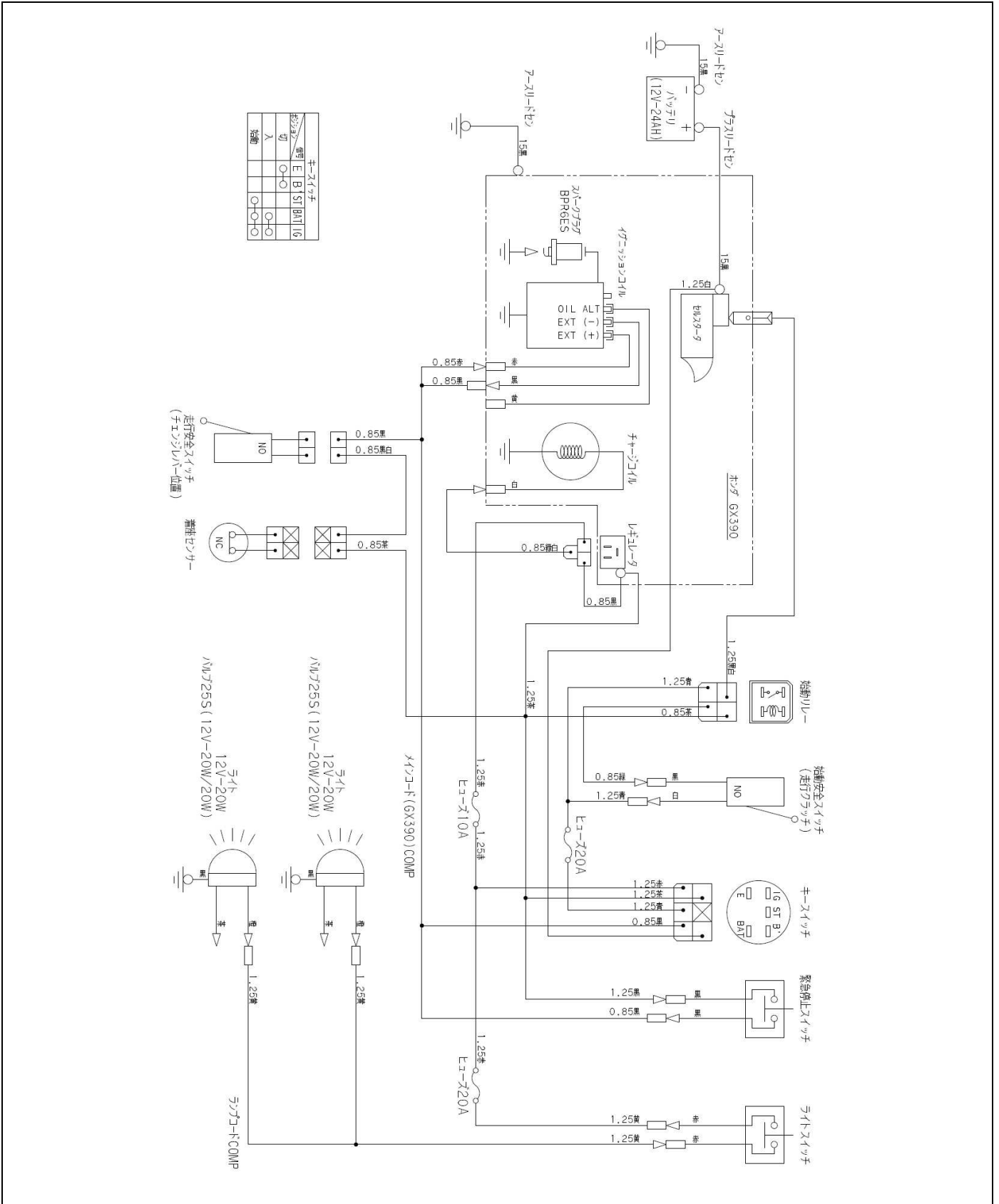
主要諸元

名 称		クローラ型運搬車		
型 式		XG1200LDEB		
最大作業能力 (kg)		1200		
車 体	質 量 (kg)	740		
	全 長 (mm)	2900		
	全 幅 (mm)	1210		
	全 高 (mm)	1690		
荷台内寸 (長×巾×枠高) (mm)		1830×1080×240		
荷台面地上高 (mm)		500		
走 行 部	走 行 形 式		エンドレスゴムクローラ (前駆動)	
	操 向 形 式		サイドクラッチ (内拡ブレーキ)	
	ブ レ ー キ 形 式		内拡式 (サイドクラッチ兼用)	
	ク ロ ー ラ サ イ ズ 幅 (mm) × リンク数 × ピッチ (mm)		250 × 53 × 72	
	轍 間 距 離 (mm)		800 (クローラ外幅: 1050)	
	接 地 長 (mm)		1360	
	接 地 圧 (kPa)		28.59	
	変 速 段 数		F-4, R-4 (ダブルテンション)	
	走 行 速 度 (km/h)	前 進	1 速	低; 1.4 高; 2.4
			2 速	低; 4.1 高; 7.2
後 進		1 速	低; 1.1 高; 1.9	
		2 速	低; 3.6 高; 6.2	
最 低 地 上 高 (mm)		170		
最 小 回 転 半 径 (m)		2.2		
エ ン ジ ン	種 類 ・ 型 式		空冷4ストローク単気筒OHV式ガソリンエンジン ホンダ GX390	
	総 排 気 量 (L[cc])		0.389[389]	
	出 力 (kW[PS])/回 転 数 (rpm) (ネット値)		定格: 7.0[9.5]/1800 (最大: 8.7[11.8])/1800	
	使 用 燃 料		自動車用無鉛ガソリン	
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		6.1	
	始 動 方 式		セルモータ式/リコイル式	
装 備	緊 急 停 止 装 置		緊急停止スイッチ	
作 業 部	機 能		油圧式リフト or ダンプ	
	装 置 仕 様		複動型油圧シリンダ	
	最大リフト時荷台面地上高(mm)		1520	
	ダ ン プ 角 度 (度)		48	
	構 成		・ 三方枠水平保持機構 (六角型段階保持) ・ 後枠: 自動開閉機能	

外観図



配線図



主な消耗部品

消耗部品のご注文の際は、部品番号をお確かめのうえ、販売店にご連絡ください。

部品番号	部品名称	個数	使用箇所・備考
0328-511-011-	Vベルト(コグ SC36HP4)	2	走行伝動部
0351-510-012-	ベルト(Vコグ B38)	1	油圧伝動部
0453-455-011-	バッテリー 34A(G)	1	電装部(型式:34A19R)
0460-101-200-	ブレーキシューCOMP	左右各1組 (2個で1組)	制動装置・旋回装置部併用
0376-353-011-	クローラ(250X53X72)	2	走行部
0450-505-016-	ヒューズ 10A	—	電装部(ガラス管ヒューズ)
0621-430-011-	ヒューズカン(20A)	—	電装部(ガラス管ヒューズ)
0437-711-200-	ランプ(12N)SET	2	電装部(ランプ ASSY)
0437-711-201-	電球:12V 20W/20W(S25 型)	2	ランプ内
—	点火プラグ:NGK BPR6ES	1	エンジン部(エンジン附属品)

索引

あ	安全な作業をするために……………	6	さ	サービス資料……………	66～69
	安全のための機械管理……………	62		サービスネット……………	19
	安全のポイント……………	5～18		最大作業能力……………	38
	安全表示ラベルの注意……………	3		サイドクラッチブレーキの調整…	50
	安全表示ラベル貼付位置……………	3～4		サイドクラッチレバー……………	25
	一般共通事項……………	61～63		サイドクラッチレバーおよび	
	移動機械共通事項……………	64・65		ブレーキレバーの調整…	48～51
	運転と作業……………	12・13		サイドクラッチレバーの	
	運転のしかた……………	31～54		あそび（ガタ）調整…	50
	運転前の準備……………	29・30		坂道の走行……………	36・37
	運転前の点検について……………	29・30		作業中の注意事項……………	64・65
	運転者の条件……………	5		作業前の確認……………	6
	エンジンオイル……………	44・45		作業前の注意事項……………	64
	エンジンの始動……………	31・32		索引……………	70・71
	エンジンの始動と停止のしかた…	31～33		始業点検……………	29・30
	エンジンの始動と発進……………	7		終業後の注意事項……………	65
	エンジンの停止……………	33		シート……………	28
	主な消耗部品……………	69		就業条件……………	61
				重要安全ポイントについて…………	2
か	外観図……………	67		主要諸元……………	66
	確認……………	49		新車の保証……………	19
	各部の調整……………	48～54		スロットルレバー……………	23
	各部の名称……………	20		積載要領……………	38・39
	各部の名称とはたらき……………	20～28		旋回のしかた……………	34
	キースイッチ……………	22		走行クラッチレバー……………	25
	機体バランス……………	39		走行クラッチレバーの調整…………	48
	ギヤボックスオイルの			走行する場合……………	7～10
	給油・交換……………	42・43		走行のしかた……………	34～38
	ギヤボックス操作部の調整…………	49		操作レバーおよび	
	給油……………	41～43		スイッチの名称とはたらき…	21～28
	給油箇所一覧表……………	41		その他の場所の走行……………	38
	緊急停止スイッチ……………	22			
	クローラの張り調整……………	54			
	子供に対する安全配慮……………	61			
	ゴムクローラへの注意……………	35・36			

索引

た	長期格納……………	55・56	は	不調時の対応のしかた……………	57～60
	長期格納後の使用……………	56		ブレーキレバー……………	24
	チョークレバー……………	23		ブレーキレバーの調整……………	51
	定期点検整備箇所一覧表……………	40		変速レバー……………	24・25
	停車・駐車……………	34・35		変速レバーの位置調整……………	52
	手入れと格納……………	55・56		保管と格納……………	15・16
	適用範囲……………	61・64		補修部品の供給期間について……………	19
	電気系統の点検と清掃……………	45～47		保証とサービス……………	19
	電気配線の点検と清掃……………	45		本体部油圧操作レバー……………	27・28
	点検・整備……………	40～47			
	点検と清掃……………	44・45			
	点検と整備……………	13～15			
	電装品の取り扱い……………	17・18			
	転輪の給脂箇所……………	41・42	ま	目次……………	1
	トラックへの積み込み・ 積み降ろし……………	10・11			
な	荷台部油圧操作レバー……………	28	や	油圧オイルの給油……………	43
	荷台部油圧操作レバーの 「中立」位置の調整……………	53		油圧クラッチレバー……………	26
	日常の格納……………	55		油圧クラッチレバーの調整……………	51
	燃料……………	44		油圧操作……………	39
	農作業を安全におこなうために……………	61～65		油圧操作レバー……………	27
は	配線図……………	68	ら	ライトスイッチ……………	23
	発進のしかた……………	34		リフト・ダンプ切替レバー……………	26
	バッテリーの点検と取り扱い……………	46・47		リフト・ダンプ切替レバーの 調整……………	53
	ヒューズの取り扱い……………	46		リフトおよびダンプ操作……………	39
	ブースタケーブル使用時の 注意事項……………	18			
	フィルタポットの清掃と交換……………	44			
	服装および保護具の使用……………	62			

困ったことや、ご不明点があれば下記までご連絡ください。

販売店
住所〒 —
TEL — —
担当；

型 式	
車体番号	

※ご使用になる前にメモしておくこと、修理を依頼されるときに役立ちます。

豊かさを創造し、未来へ挑戦する 株式会社アテックス

本 社	愛媛県松山市衣山1丁目2-5 TEL (089) 924-7161 (代) FAX (089) 925-0771 TEL (089)924-7162 (営業直通) ホームページ http://www.atexnet.co.jp/	〒791-8524
東 北 営 業 所	岩手県花巻市北湯口第2地割1-14 TEL (0198) 29-6322 (代) FAX (0198) 29-6323	〒025-0301
関 東 支 店	茨城県猿島郡五霞町元栗橋6633 TEL (0280) 84-4231 (代) FAX (0280) 84-4233	〒306-0313
中 部 営 業 所	岐阜県大垣市本今5丁目128 TEL (0584) 89-8141 (代) FAX (0584) 89-8155	〒503-0931
中 四 国 支 店	愛媛県松山市衣山1丁目2-5 TEL (089) 924-7162 FAX (089) 925-0771	〒791-8524
九 州 営 業 所	熊本県菊池郡菊陽町大字原水1262-1 TEL (096) 292-3076 (代) FAX (096) 292-3423	〒869-1102
部 品 セ ン タ ー	愛媛県松山市馬木町899-6 TEL (089) 979-5910 (代) FAX (089) 979-5950	〒799-2655

部品コード	0376-945-036-0
-------	----------------